

教 科 目	化学	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	さめしま いちろう 鮫島　一郎	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院にて薬毒物分析に従事
教科目目標	生命現象や人間の生活を科学的に理解する上で必要な物質の構造、化学の原理・法則を学び、専門科目の基礎的知識を習得できる。		
教科目内容	１．化学の基礎知識 ２．物質の変化 ３．物質の構成		
授業予定期間	2024 年４月～６月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1. 原子の構造と化学結合 2. 物質の三態 3. 気体、液体、溶液の性質 4. 化学反応と化学平衡 5. 無機化合物 6. 有機化合物Ⅰ 7. 有機化合物Ⅱ 8. まとめ		
教科書	系統看護学講座　　　基礎分野　　　化学　　　（医学書院）		
受験資格	6 回以上の出席		
評価方法	終講試験・レポート・授業態度・その他		
備 考			

教 科 目	生物学	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	もりた ひろし 森田 洋	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて教授として勤務 農学博士
教 科 目 目 標	地球上には様々な生物種が生育している。これらの生物は種によって形や性質が異なり、生命活動を維持するためのしくみも多様である。しかしこれらの異なる生物種を分子レベルや細胞レベルで見たときには、様々な共通点も存在する。このように多様な生物界にみられる共通の特性は、生命現象を科学的に理解する上で、重要な手掛かりとなる。本講義では、膨大な年月をかけて進化した生命の見事な多様性、精密さに触れながら、生理学、生化学、栄養学の入門として、生物学の基礎を概説することで、「生命とは何か？」について理解を深めていくことを目標とする。		
教 科 目 内 容	1. 生命の連続性（細胞・個体・生殖・進化） 2. 生命体を構成する物質（タンパク質・糖質など） 3. 酵素反応と代謝によるエネルギー獲得機構 4. 遺伝のしくみと遺伝形質の発現 5. 生体恒常性と神経伝達のしくみ 6. 生態系と地球環境の変化		
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目：生命体はどのように成り立っているか 2 回目：生命体を支える物質① タンパク質 3 回目：生命体を支える物質② 糖質 4 回目：酵素の特性と反応調節機構 5 回目：エネルギー獲得機構 6 回目：無性生殖 7 回目：有性生殖 8 回目：植物の生殖と成長 9 回目：遺伝のしくみ 10 回目：遺伝形質の発現 11 回目：内部環境の恒常性 12 回目：神経伝達のしくみ 13 回目：生命の進化と多様性 14 回目：物質循環と生物とのかかわり 15 回目：人間活動と地球環境とのかかわり		
教 科 書	系統看護学講座 生物学（第 10 版）、医学書院 ISBN：978-4-260-03189-9		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（100 点）で評価する。		
備 考			

教 科 目	教育学	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	あきなが さほ 秋永 沙穂	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	専門学校にて非常勤講師として勤務
教 科 目 目 標	教育についての基本的な知識を学び、看護の学びや実践に活かすことができる。 教育に関する問題を深く考えることができる。		
教 科 目 内 容	教育の意義や目的、基本的な概念について学ぶ。「子ども」から「大人」になるということ、また学校に通うといったことは、現在「当たり前」のこととして考えられている。では、なぜ私たちは「子ども」から「大人」になり、学校へ通わなければならないのか。本講義では「子ども」「大人」の捉え方の展開や学校の成り立ち、またそれに関する法制度などを整理することで、現在の「当たり前」の考え方の下になっているものについて考えていく。		
授業予定期間	2024 年 4 月～6 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 子どもとは何か①子どもの発見 第 3 回 子どもとは何か②権利をもつものとしての子ども 第 4 回 学校とは何か 第 5 回 学びの場としての学校と家庭 第 6 回 ジェンダーと教育 第 7 回 特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育 第 8 回 まとめ		
教 科 書	なし。都度参考文献を紹介する。		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	出席状況、コメントシート、レポートの成績から総合的に判断する		
備 考			

教 科 目	情報学	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式・パソコン演習
講 師	はしぐち ようすけ 橋口 陽介	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院の情報システム室勤務
教 科 目 目 標	現代社会や保健医療における情報の取り扱いや看護情報学の関連を理解し Windows の基本操作基本的操作、情報の処理スキルが身につく。		
教 科 目 内 容	現代社会と情報のあり方や情報と倫理（情報倫理と医療 患者の権利 個人情報の保護 コンピューターリテラシーとセキュリティ）を学び、Windows の基本操作について学ぶ。		
授業予定期間	2024 年 5 月～7 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1. 現代社会と情報 2. 保健医療における情報 3. 情報と倫理 4. Windows の基本操作 5. Word、文書作成の作成 6. Excel アンケート用紙の作成 表計算・関数を使った資料の作成 7. PowerPoint スライドの作成と発表 8. まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 別巻 看護情報学 （医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	出席状況、受講態度、演習態度、提出物 ＊以上を勘案し終講試験点数 60 点以上を合格とする。		
備 考			

教 科 目	看護情報学	時間（単位）	16 時間
		講義方法	講義
講 師	そのだひろゆき 園田浩之	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて講師（社会学） として勤務
教 科 目 目 標	1. 看護における情報の扱い方や読み解き方を理解する 2. データを客観的に分析するための基礎的な考え方・方法を理解し、身につける		
教 科 目 内 容	1. 看護と調査・データ 2. データの読み解き方・分析の仕方 3. 看護のための基礎的なリサーチ・リテラシー		
授業予定期間	2024 年 4 月～6 月 第 49 期生 2 年次		
授業計画	第 1 回目：はじまりの話——見えないものを見る方法？ 第 2 回目：「事実」を知ることの難しさ——思い込み・バイアス（偏り）を超えて 第 3 回目：看護・医療と統計——そもそもの話（エビデンスって何？ 経験・実感を超えて） 第 4 回目：クロス集計という方法——関係を見つける（データの扱い方・分析の方法） 第 5 回目：比較する目を研ぎ澄ます——違いを見つける／違いから考える 第 6 回目：ひとつひとつではわからないこと——集めて・まとめて、その一歩先へ 第 7 回目：「見える」ようにする——発見を可視化する 第 8 回目：数値でわかること／わからないこと——情報の目利きになるために		
教 科 書	教科書（テキスト）は使用しません。配布資料とスライドで講義を進めます。		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験・出席・講義への参加状況		
備 考			

教 科 目	英語 I	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	ふなかつ ひろこ 船方 浩子	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて英語非常勤講師として勤務
教 科 目 目 標	看護師として働く上での日常的な英会話、医療関係の語彙などを身につける。		
教 科 目 内 容	会話の内容理解、反復練習、必要に応じて文法説明。		
授業予定期間	2024 年 4 月～6 月第 50 期生 1 年次		
授業計画	第 1 回：Unit 1：Asking Basic Questions Unit 2：A Patient's First Visit 第 2 回：Unit 3：Where's Internal Medicine? ① 第 3 回：Unit 3 ② 第 4 回：Unit 4：Admission to the Hospital 第 5 回：Unit 5：Giving Information ① 第 6 回：Unit 5 ② 第 7 回：Unit 6：Symptoms ① 第 8 回：Unit 6 ②、まとめ		
教 科 書	“Speaking of Nursing” 『看護系学生のための英語コミュニケーション』 南雲堂		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験：70%、日常の授業への取り組み：30%		
備 考	1. 授業の進度、文法説明により、授業計画が前後することもある。		

教 科 目	英語Ⅱ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	いのうえ かずこ 井上 和子	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学・看護専門学校にて 講師として勤務
教科目目標	益々増加してくる外国人の患者さんとコミュニケーションがとれるようにすること、それによって患者さんの不安を少しでも取り除いてあげることが医療現場では求められています。実際に使用される可能性のある医療・看護の専門英語とコミュニケーションのとり方を習得します。		
教科目内容	医療に関する英単語及び基本的英語表現を習得する。		
授業予定期間	2024 年 9 月～11 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1 回目 教材の説明、授業の受け方 Unit 7 : Injuries and Emergencies 2 回目 Unit 8 : How Are You Feeling? 3 回目 Unit 9 : A Patient's Medical History 4 回目 Review Units 7～9 5 回目 Unit 10 : Medicine 6 回目 Unit 11 : I'm Going to Give You an IV 7 回目 Unit 12 : Congratulations! You're Having a Baby Girl 8 回目 Review Units 10～12		
教科書	“Speaking of Nursing” 『看護系学生のための英語コミュニケーション』 南雲堂		
受験資格	6 回以上の出席		
評価方法	終講試験の成績		
備考			

教 科 目	心理学	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	浦 由美子（発達心理学 16 時間）	クアモト 美穂（臨床心理学 14 時間）	
所属	非常勤講師	非常勤講師	
担当者実務経験	児童相談所にて児童心理司として勤務	学校や病院にカウンセラーとして勤務	
教 科 目 目 標	1. 人間理解の為の基礎知識として、主に発達心理学・臨床心理学の基本を習得できる。 2. 人間の内面的な世界について学び、個別性と自己洞察の重要性を理解すると共に人間関係技能の基礎を育成できる。		
教 科 目 内 容	1. 人間の意識と行動の本質 2. 適応の心理（危機理論・ストレス理論・適応規制含む） 3. 人格形成における集団心理 4. 人間の成長・発達 5. カウンセリング 6. 医療と心理学		
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月	第 50 期生 1 年次	
授業計画	【発達心理学】<浦 由美子> 1 回目：発達とは何か 生涯発達の概念、遺伝（成熟）か環境（学習）か ピアジェ・フロイト・エリクソンの発達観 2 回目：発達の特徴と発達課題 I （胎児期・新生児期） 3 回目：発達の特徴と発達課題 II （乳児期） 4 回目：発達の特徴と発達課題 III （幼児期） 5 回目：発達の特徴と発達課題 IV （児童期） 6 回目：発達の特徴と発達課題 V （青年期、自我同一性の確立） 7 回目：発達の特徴と発達課題 VI （成人期） 8 回目：発達の特徴と発達課題 VII （老年期） 【臨床心理学】<クアモト 美穂> 9 回目：授業の約束事 “心とは”（ビデオ学習を中心に）と臨床心理学概論Ⅰ - ① 10 回目：臨床心理学概論Ⅰ - ②（主な心理療法／カウンセリング方法論） 11 回目：臨床心理学概論Ⅱ - ①（カウンセリング方法論） 12 回目：カウンセリング実習と臨床心理学概論Ⅱ - ② 13 回目：臨床心理学概論（心理検査）Ⅲとメンタルヘルスケア 14 回目：カウンセリング実習 グループワーク 15 回目：臨床心理学概論Ⅳとまとめ		
教 科 書	〔発達心理学〕最新図解 よくわかる発達心理学 ナツメ社 系統看護学講座 心理学 医学書院 〔臨床心理学〕完全カラー図解 よくわかる臨床心理学 ナツメ社 系統看護学講座 心理学 医学書院		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	レポート他 平常点と試験 浦：50 点 クアモト：50 点		
備 考			

教 科 目	論理的思考	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	きむら もとたろう 木村 元太郎	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学基幹教育院 Teaching assistant
教科目目標	論理的思考を学んで「よりよい意思決定」の基盤を育成する		
教科目内容	本講義は、世の中の様々な問題について、各生徒がそれぞれどういう立場をとるのかを、グループまたは個人ワークを通じて考えてもらい、その立場が一体どのような理由で選択されたのかを振り返ってもらいます。また、問題に混在している様々な論点を見分けて整理することで、問題の全体像を明確にします。こうした作業を通じて、自分とは異なる価値観を理解し、より大きな視野から物事をとらえることで、人生における様々な選択に対して、よりよい意思決定や適切な判断ができる力を育みます。		
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月 第 50 期生 1 年次		
授 業 計 画	1. オリエンテーション。授業の目的と最終課題（ポスター作製）までの流れ。グループに分かれてチーム名を決める。リアクションペーパーの説明。 2. 対立する立場が取り出せる「具体的な問題」をリストアップして、それぞれの立場は何か決め手となったのか理由を探る。 3. 「イルカ漁」をめぐる問題を分析して、賛成側の意見や理由を整理する。 4. イルカ漁に反対する人たちの意見や理由を想像してみる。 5. 実際の映像を通じて、イルカ漁に対する自分の立場を考える。自分の立場を支える最大の理由は何かを論理的に説明する。 6. イルカ漁の考察をワークシートにまとめる。 7. 「田舎と都会」の良いところ／悪いところをリストアップして、それぞれの理由をクラスで共有する。 8. 田舎を維持するための税金問題を、当事者の一人として考えてみる。 9. 自分自身の立場を確認する。またその立場は、これまでの社会的背景にどの程度影響を受けたものか。他の人たちの理由や背景も確認する。 10. 「田舎と都会」の考察をワークシートにまとめる。 11. 「安楽死」について、グループで理由や立場を分析する。 12. 「血液型と性格」について、グループで理由や立場を分析する。 ポスター作製の準備。 13. 各チームが決めた「具体的な問題」をミニポスターにまとめる。 14. チームごとに作製したポスターを、クラス全体で共有して議論する。 15. ポスターの共有と議論（前回の続き）と授業のまとめ。		
教 科 書	適宜、プリント資料を配布		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	リアクションペーパー（30%）。ポスターの発表やチームへの貢献（20%）。 終講試験（50%）。		
備 考	最初の授業で、1 グループ 4 名程度にクラスを分けます。 13 回目の授業では、模造紙を使ってミニポスターを作ります。		

教 科 目	レクレーション理論と実践	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式・実践
講 師	やまもと こうじ 山 本 浩二	所 属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて准教授として勤務
教 科 目 目 標	健康の保持増進のみならずリーダーシップやコミュニケーション能力の獲得を目指す		
教 科 目 内 容	レクレーション理論と実践を通して、健康の保持増進に必要な能力の獲得を目指す。さらには、人間関係づくりやコミュニケーション能力を養う		
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1. オリエンテーション 2. レクレーションとは 3. レクレーションと余暇活動 4. 運動と身体の健康について 5. 快適自己ペースの運動（運動強度） 6. 運動と心の健康 7. レクレーションの実践（1）グループゲーム 8. レクレーションの実践（2）イニシアティブゲーム 9. ニュースポーツの実践（1）ペタンク 10. ニュースポーツの実践（2）インディアカ 11. ボールゲーム 12. ラケットゲーム 13. 生涯スポーツとは 14. 車椅子のスポーツ実践 15. まとめ		
教 科 書	特に指定しない		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	受講態度・出席・レポートを総合的に判断します		
備 考	必要な資料は適宜配布します。 室内用のシューズ、ウェア、フェイスタオルを持参すること。 遅刻は認めない。		

教 科 目	文 学	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	いまがわ きょうこ 今川 京子	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて講師として勤務
教 科 目 目 標	1. メアリー・シェリーの小説『フランケンシュタイン』の精読を通して人間の生死の問題をはじめとする様々な問題を一緒に考えることで、豊かさと感性を培い、人間という存在への理解を深めることができる。 2. 医学や科学、倫理といったテーマを扱う小説やエッセイに触れ、それらが投げかける問題について自分の考えをまとめる作業を通して、文章の書き方の基礎を習得できる。 3. レポートの基本構造および参考文献の引用の仕方、レポートを執筆する際のルールを学び、アカデミックなレポートの書き方を習得する。		
教 科 目 内 容	1. 日本文学（詩、エッセイ、小説、映画など） 2. 西洋文学（詩、エッセイ、小説、映画など） 3. 正しい日本語と文章表現		
授業予定期間	2024 年 4 月～6 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目：文学における生と死——『フランケンシュタイン』の場合 エッセイ「医者はどうのように死んでいくのか—How Doctors Die—」を読む 2 回目：『フランケンシュタイン』 pp.1－78 3 回目：pp.79－150 4 回目：pp.150－219 5 回目：pp.220－293 6 回目：pp.293－400 7 回目：レポートの書き方について 8 回目：まとめ *臓器移植や脳死をめぐる倫理的問題、生命の神秘を操作するクローン技術の発達などが抱える現代医療の課題を彷彿させる小説『フランケンシュタイン』を読みながら、みなさんと一緒に生とは何か、そして人間とは何かを考えていきたいと思っています。 *毎回、まとまった量の文章を読んだ上で各章の要約を作成する訓練を重ね、論理的かつ明確な文章の書き方を習得します。 *提示されたテーマに関して自分の意見を短時間でまとめ、グループ内で発表する場を通じ、自分の意見を相手に分かりやすく伝えるために必要な言葉のチョイスの仕方を学び、かつ他者の意見に耳を傾けることで、さらに視野が広がることを学びます。		
教 科 書	『フランケンシュタイン』 光文社古典新訳文庫 光文社		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	レポート		
備 考	毎回、事前にテキストの指定された範囲を読んできて下さい。		

教 科 目	人間関係論	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	しばはら けんたろう 柴原 健太郎	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて准教授として勤務
教 科 目 目 標	医療福祉現場における患者とのコミュニケーション、医療職者間のコミュニケーションについて理解し、スキル（技術）を身につける。		
教 科 目 内 容	事例検討、ロールプレイ、グループワークを通じて患者とのコミュニケーション、医療職者間のコミュニケーションについて理解し、スキルを身につける。		
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1 回目： オリエンテーション、関係づくりのスタート 2 回目： コミュニケーションについて 3 回目： 人間と人間関係 4 回目： 自己理解と他者理解 5 回目： 自己開示 6 回目： コミュニケーション 7 回目： 人間関係の歪み 8 回目： 保健医療における人間関係（援助的人間関係） 9 回目： チームの人間関係 関係づくり 10 回目： バーバルコミュニケーション 11 回目： ノンバーバルコミュニケーション 12 回目： 行動が心を変える（自分へのコミュニケーション） 13 回目： タイプ別のコミュニケーション 14 回目： チームでのコミュニケーション 15 回目： まとめ		
教 科 書	教科書は用いず、講義のレジュメおよび資料を配布する		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	出席態度、レポート、筆記試験を総合して評価する		
備 考			

教 科 目	社 会 学	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	いなづき 稲月 ただし 正	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて教授として勤務
教 科 目 目 標	社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解する。		
教 科 目 内 容	①社会学の基本的な考え方 ②現代社会の社会学的な解説		
授業予定期間	2024 年 9 月～10 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	第Ⅰ部 社会学の基本的な考え方 第 1 回 社会とは何か 第 2 回 「社会学的に考える」とはどのように考えることなのか 第 3 回 社会学の歴史的展開－E.デュルケム 第 4 回 社会学の歴史的展開－M.ウェーバー 第Ⅱ部 現代社会の社会学的な解説 第 5 回 変容する家族 第 6 回 集団と組織 第 7 回 逸脱と社会統制 第 8 回 生活困窮（貧困）と社会的排除		
教 科 書	使用しない（適宜、プリント、資料を配布する）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	授業の際に出す課題：40% 試験：60% （総合的に判断する。）		
備 考			

教 科 目	家 族 論	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	やました あきこ 山下 亜紀子	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	家族理論、家族社会学について 大学にて准教授として勤務
教 科 目 目 標	現代社会における家族の多様性、家族に生じる支援ニーズを理解し、家族看護の必要性及び 実際を理解する		
教 科 目 内 容	家族看護が必要となる背景、理論、実践		
授業予定期間	2024 年 4 月～6 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	- 家族看護の必要性 - 家族看護が必要となる背景 - 家族看護の特徴と理念 - 現代社会における家族の特徴（1） - 現代家族の特徴 - 現代家族のライフコース - 現代社会における家族の特徴（2） - 現代家族のジェンダー - 現代家族の生活課題 - 家族看護の実際（1） - 急性期患者の家族看護実践 - 慢性期患者の家族看護実践 - 家族看護の実際（2） - 終末期患者の家族看護実践 - 精神疾患患者の家族看護実践 - 家族看護の実際（3） - 高齢者の家族看護実践 - 周産期に関する家族看護実践 - 小児期に関する家族看護実践 - 事例展開（さまざまな状況・アプローチの実際） - 患者と家族アプローチの実際（1） - 患者と家族アプローチの実際（2） - まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 別巻 家族看護学 （医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	授業への参加度とレポートの内容によって評価する		
備 考			

教 科 目	倫理学	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	まるやま のぞみ 丸山 望実	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	看護専門学校にて非常勤講師として勤務
教科目目標	1. 倫理学における専門的な諸概念を理解するとともに、自分なりに説明できるようになる。 2. 身に着けた諸概念をもとに、自分なりに医療倫理学上の問題について考え、主張することができるようになる。		
教科目内容	本講義は「倫理学」と呼ばれる学問の中でも、特に看護師を目指すうえで関連の深い「医療倫理」を扱う。 一口に「医療倫理」といっても、扱うテーマは「性と生殖」「死」「先端医療」など多岐にわたる。この授業では、こういった様々なテーマに関する知識、とりわけ「倫理学」に関連する基本的な知識を身に付けてもらうことを第一の目標とする。また、これらの知識を活かして自分なりに倫理的な問題について考え、自分の言葉でそれを主張することができるようになることを最終的な目標とする。		
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月 第 50 期生 1 年次		
授 業 計 画	第1回 イン트로ダクション 第2回 倫理学の基本的な考え方 第3回 性と生殖の倫理① 第4回 性と生殖の倫理② 第5回 卵子売買（DVD 鑑賞） 第6回 死をめぐる倫理① 第7回 死をめぐる倫理② 第8回 先端医療をめぐる倫理① 第9回 先端医療をめぐる倫理② 第10回 先端医療をめぐる倫理③ 第11回 ケアの倫理 第12回 看護倫理① 第13回 看護倫理② 第14回 看護倫理③ 第15回 まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 別巻 看護倫理（医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	リアクションペーパー（30%）、終講試験（70%）		
備 考	毎回授業の終了時に簡単な課題（リアクションペーパー）に取り組んでもらう。 課題の内容は、成績評価及び授業の進め方の参考にさせていただきます。		

教 科 目	解剖生理学 I	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	わん 王 克鏞	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学医学部の教育教授として勤務（医学博士）
教 科 目 目 標	人体を構成する各器官の基本的な構造（形態学）の理解を基盤に、それら各器官の正常な働き（機能学）とその異常で生じる疾患について学習する。解剖生理学の知識は、治療を理解する上での重要な礎となるものであるため、看護に携わる者として正確に理解する。		
教 科 目 内 容	人体各部部位の位置と名称を整理した上で、循環・呼吸・消化に関わる器官の構造を中心に学習を行う。		
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1. 人体の構造と骨組み（イントロ） 1 回目 細胞と組織 2 回目 人体の構造（部位の名称など） 3 回目 体幹・四肢の骨格系 2. 体液とその循環のしくみ（循環器系・リンパ系・血液・リンパ液） 4 回目 循環器系の概要 5 回目 心臓 6 回目 血管・リンパ管 7 回目 体液（血液・組織液・リンパ液） 3. 酸素を取り込む仕組み（呼吸器系） 8 回目 呼吸器系の構造 9 回目 ガス交換 10 回目 呼吸調節 4. 栄養素を取り込み利用する仕組み（消化器系） 11 回目 消化器系の概要 12 回目 咀嚼と嚥下 13 回目 消化と吸収 14 回目 膵臓の機能 15 回目 肝臓と胆嚢 ※ 解剖生理学 I 又は II の途中で、解剖見学が入る予定。時間調整は適宜行う。		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学（医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（100 点）		
備 考			

教 科 目	解剖生理学Ⅱ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	なかしま たみじ 中島 民治	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学医学部解剖学教室および産業保健学部看護科准教授として勤務（歯学博士）
教 科 目 目 標	人体を構成する各器官の基本的な構造（形態学）の理解を基盤に、それら各器官の正常な働き（機能学）とその異常で生じる疾患について学習する。解剖生理学の知識は、治療を理解する上での重要な礎となるものであるため、看護に携わる者として正確に理解する。		
教 科 目 内 容	運動器、感覚器、生体防御機能及び生殖に関わる器官の構造について学習を行う。		
授業予定期間	2024 年 5 月～2024 年 10 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1. 身体を動かす仕組み（骨格筋・運動器系） 1 回目 骨組織と筋組織の特徴 2 回目 関節と靱帯の仕組み 体幹部を構成する骨格筋の働き 3 回目 体幹の骨格と筋 4 回目 上肢および下肢の骨格と筋 5 回目 頭頸部の骨格と筋 2. 外界からの刺激を受け取る仕組み（感覚器系） 6 回目 眼の構造と視覚 7 回目 耳の構造と聴覚・平衡覚 8 回目 味覚と嗅覚 3. 身体機能の防御と適応 9 回目 皮膚の構造と機能 10 回目 非特異的防御機能 11 回目 特異的防御機能（免疫） 12 回目 体温とその調節 4. 次世代に生命をつなぐ仕組み（生殖器系・ヒトの発生） 13 回目 男性生殖器系 14 回目 女性生殖器系 15 回目 ヒトの発生と胎児 ※ 解剖生理学Ⅰ又はⅡの途中で、解剖見学が入る予定。特別活動として行うため授業時間には含まれない。		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学（医学書院） 系統看護学講座 解剖生理学ワークブック 2023 年版（医学書院） 書籍		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 100 点（中島 100 点）		
備 考			

教 科 目	解剖生理学 III	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	まつき やすまさ 松木 康真	所属	非常勤講師
		担当実務経験	病院にて医師として勤務 医学博士
教 科 目 目 標	人体を構成する各器官の基本的な構造（形態学）の理解を基盤に、それら各器官の正常な働き（機能学）とその異常で生じる疾患について学習する。解剖生理学の知識は、治療を理解する上での重要な礎となるものであるため、看護に携わる者として正確に理解する。		
教 科 目 内 容	【看護実践に向けての応用 I】 解剖生理学 I． II で学習した人体の構造と機能についての知識を発展させ、循環・呼吸・消化・排泄の機能調節とその異常について学習を行う。		
授業予定期間	2024 年 6 月～10 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1. 心臓が拍動するしくみ： 1 回目 ポンプとしての心臓と循環動態. 2 回目 自律神経系における心機能の調節 3 回目 心周期・刺激伝導系 4 回目 心電図 2. 呼吸調節のしくみ 5 回目 呼吸のメカニクス（呼吸運動の調節と肺容積・肺コンプライアンス、胸腔内の状態） 6 回目 呼吸の自動調節について（呼吸中枢、中枢・末梢化学受容器） 7 回目 ガス交換の仕組み（外呼吸・内呼吸・換気と血流の変化） 8 位目 体液 pH の調節系 3. 消化と吸収、代謝のしくみ 9 回目 口腔～肛門にかけての消化管の各機能と門脈 10 回目 消化管で吸収された栄養分を処理する肝の役割 11 回目 胆汁の成分と分泌調整、ビリルビン代謝 12 回目 膵臓の外分泌・内分泌機能と血糖値の恒常性 4. 尿生成のしくみ 13 回目 ネフロンの構造と機能、糸球体濾過値について 14 回目 尿生成の調節機能 15 回目 蓄尿と排尿に関わる神経と筋		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 （医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（100 点）		
備 考			

教 科 目	解剖生理学 IV	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方式	講義形式
講 師	あずま か がく 東 華岳	わん こうよん 王 克鏞	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	
担当実務経験	大学医学部解剖学教室 教授 （医学博士）	大学医学部の教育教授として勤務 （医学博士）	
教 科 目 目 標	人体を構成する各器官の基本的な構造（形態学）の理解を基盤に、それら各器官の正常な働き（機能学）とその異常で生じる疾患について学習する。解剖生理学の知識は、治療を理解する上での重要な礎となるものであるため、看護に携わる者として正確に理解する。		
教 科 目 内 容	【看護実践に向けての応用Ⅱ】 解剖生理Ⅰ・Ⅱで学習した人体の構造と機能についての知識を発展させ、身体の恒常性を維持するための機能とその異常を学習する。		
授業予定期間	2024 年 10 月～2025 年 2 月 第 50 期生 1 年次		
授 業 計 画	第 1-3 回 内分泌系のしくみ 1～8（東） 1 回目 視床下部・下垂体系ホルモンののはたらきと、フィードバック機構 2 回目 甲状腺・副甲状腺ホルモンののはたらきとカルシウム代謝 3 回目 副腎ホルモンならびにその他ホルモンののはたらき 第 4-8 回 中枢神経・末梢神経系のはたらき 4 回目 脳の機能局在、意識の評価 5 回目 神経の理解、脳幹部の機能と評価 6 回目 錐体路と錐体外路系、各種反射について 7 回目 視覚・痛覚・触覚・平衡感覚など 8 回目 自律神経系による調節 第 9-11 回 血液の成分とはたらき 9～15（王） 9 回目 赤血球の成分とはたらき、血液型 10 回目 白血球の種類とはたらき 11 回目 血小板のはたらきと、血液凝固・線溶系 第 12-15 回 身体機能の防御と適応 12 回目 非特異的防御機構 13 回目 特異的防御機構（免疫） 14 回目 免疫の異常 15 回目 代謝と調節		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学（医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（配点 東 50 点 王 50 点 ）		
備 考			

教 科 目	生化学	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	ひきち ひさこ 引地 尚子	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて名誉教授として勤務
教 科 目 目 標	1. 生体を形づくる成分や物質およびそれらの機能と化学的変化などの生命現象を理解できる.		
教 科 目 内 容	1. 生体を構成する物質 2. 生体内の物質代謝 3. 遺伝情報とその発現		
授業予定期間	2024 年 9 月～10 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1. 糖質 2. 脂質 3. タンパク質 4. 核酸 5. ビタミン・無機質 6. 水・血液・尿 7. ホルモンと生理活性 8. まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 2 生化学 （医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（100 点 ）		
備 考			

教 科 目	栄養学	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	にしむら 西村 さなえ 早苗	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院にて管理栄養士として勤務
教 科 目 目 標	生体が正常な営みをするために必要な栄養に関する基礎的な知識を学び、疾病や障害に合わせた栄養の意義が理解できる。		
教 科 目 内 容	1. 栄養学の成り立ちと目的 2. 飲食物の摂取と消化吸収 3. エネルギー代謝とエネルギー所要量 4. 各栄養素の栄養価と栄養量 5. ライフステージと栄養 6. 臨床栄養の意義		
授業予定期間	2025 年 1 月～2 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1 回目：栄養の定義、栄養素の種類、炭水化物の栄養的意義 2 回目：脂質、蛋白質の栄養的意義 3 回目：無機質、ビタミン、水の栄養的意義 4 回目：エネルギー代謝、栄養所要量 5 回目：ライフステージと栄養 6 回目：食品構成と各種食品の特徴 7 回目：飲食物の摂取と消化・吸収（1） 8 回目：飲食物の摂取と消化・吸収（2）		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 3 栄養学 （医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 100 点		
備 考			

教 科 目	病理学総論	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	まつき やすまさ 松木 康真	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院にて医師として勤務 医学博士
教 科 目 目 標	臨床で必要となる病理学の基礎知識（病理学総論）を学ぶ。体の異常状態において、人体の構造や機能がどのように変化するかを理解し、適切な用語を用いて説明できることを目標とする。		
教 科 目 内 容	病理学総論		
授業予定期間	2024 年 10 月～2025 年 2 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1 回目：病理学とは 2 回目：疾病の概要 3 回目：細胞・組織とその障害 4 回目：再生と修復 5 回目：炎症 6 回目：免疫とアレルギー 7 回目：感染症 8 回目：代謝異常 9 回目：老化と老年病 10 回目：新生児の病理 11 回目：先天異常 12 回目：腫瘍 13 回目：循環障害 14 回目：呼吸障害 15 回目：新しい技術		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 1 病理学 （医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	日常点（出席状況と小テスト）と終講試験で評価する		
備 考			

教 科 目	臨床放射線医学 臨床検査学			時間（単位）		30 時間（1 単位）	
				講義方法		講義形式	
講 師	い わ ま さ ゆ き 井脇正之	お お ぐ し あ つ し 大串篤利	え と う か ず み 衛藤和美	に し だ ま さ ふ み 西田昌史	な か も と ゆ う こ 中本祐子	も う り ゆ う こ 毛利祐子	あ き よ し み ち こ 亀吉美智子
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師
担当者実務経験	病院にて 診療放射 線技師と して勤務	病院にて 臨床検査 技師とし て勤務	病院にて 臨床検査 技師とし て勤務	病院にて 臨床検査 技師とし て勤務	病院にて 臨床検査 技師とし て勤務	病院にて 臨床検査 技師とし て勤務	病院にて臨 床検査技師 として勤務
教 科 目 目 標	解剖生理や疾患に関連した検査について学び、看護を行う上での基礎的な知識を理解する。						
教 科 目 内 容	臨床放射線医学（8 時間）・臨床検査学（16 時間）・病理学的検査（6 時間）						
授業予定期間	2024 年 11 月～2025 年 2 月 第 50 期生 1 年次						
授業計画	【臨床放射線医学】井脇 正之 1 回目：放射線科が担当する画像診断部門の概要 検査の種類（一般撮影、CT、MRI、など）とその特徴、看護上の問題 放射線の種類と性質及び MRI、US などの原理 電子カルテ利用の利点、問題点 放射線防護上の問題点 ※2 回目以降で、検査毎の原理と臨床例提示、看護上の留意事項 2 回目：血管造影 CT 3 回目：MRI 一般撮影 4 回目：放射線治療・核医学 【臨床検査学】 5 回目：臨床検査総論（看護師の役割 検体の取り扱い） 大串 6 回目：一般検査 大串 7 回目：血液学的検査 大串 8 回目：化学検査 内分泌検査 大串 9 回目：免疫・血清学的検査（輸血の種類と取り扱い） 西田 10 回目：微生物学的検査 中本 11 回目：生体検査（生理検査・画像検査） 毛利 12 回目：生体検査（内視鏡検査） 亀吉 【病理学的検査】衛藤 和美 13 回目：腫瘍の形態学的特徴と検査法の概要 14 回目：各器官の腫瘍（消化器・呼吸器・泌尿器・女性生殖器） 15 回目：各器官の腫瘍（造血器・脳・神経・運動器）						
教 科 書	系統看護学講座 別巻			臨床放射線医学		（医学書院）	
	系統看護学講座 別巻			臨床検査		（医学書院）	
受 験 資 格	10 回以上の出席						
評 価 方 法	試験（放射線：30 点、 臨床検査：50 点、 病理学：20 点）						
備 考							

教 科 目	病態生理学Ⅰ (呼吸器疾患 消化器疾患)	時間 (単位)	16 時間 (1 単位)
		講義方法	講義形式
講 師	かいづか やすお 海塚 安郎	さたけ まさあき 佐竹 真明	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	
担当者実務経験	病院にて医師として勤務	病院にて医師として勤務	
教 科 目 目 標	呼吸器・消化器機能障害の原因・誘因と、機能障害に伴う治療や処置・検査の概略を理解する		
教 科 目 内 容	呼吸器・消化器の代表的な疾患に対する病態生理・症状・診断		
授業予定期間	2024 年 5 月～7 月		第 49 期生 2 年次
授 業 計 画	【呼吸器疾患】＜呼吸器系疾患の病態と診断・治療 海塚医師＞		
	1 回目 感染症・気道疾患		
	かぜ症候群 インフルエンザ 気管支炎 気管支喘息 気管支拡張症 (吸入による薬物療法) 肺炎(細菌性・間質性) 肺結核		
	2 回目 呼吸不全・呼吸調節にかかわる疾患		
	呼吸不全の病態生理、 睡眠時無呼吸症候群 換気障害 COPD		
	3 回目 肺循環疾患・肺癌		
	肺血栓肺塞栓症 肺水腫 肺高血圧症 肺癌		
	4 回目 胸膜・縦隔・横隔膜・胸部外傷の疾患		
	胸膜炎 気胸 胸腔ドレナージ 縦隔腫瘍		
	【消化器疾患】＜消化器系疾患の病態と診断・治療 佐竹医師＞		
授 業 計 画	5 回目：上部消化管の疾患の病態と診断・治療		
	炎症性疾患(逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ 感染症)、潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍)、腫瘍(食道癌、胃癌)		
	6 回目：下部消化管の疾患の病態と診断・治療		
	炎症性疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、痔瘻)、イレウス、 腫瘍(大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌)		
	7 回目：肝臓・胆嚢・膵臓の疾患の病態と診断・治療		
	炎症性疾患(肝炎、胆管炎、膵炎)、肝硬変、腫瘍(肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵 癌)、胆石症、		
授 業 計 画	8 回目：腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療		
	鼠経ヘルニア、腹膜炎、横隔膜ヘルニア、		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 (医学書院)		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 海塚 50 点 佐竹 50 点		
備 考			

教 科 目	病態生理学Ⅱ (脳神経・骨・血液)		時間（単位）	16 時間（1 単位）
			講義方法	講義形式
講 師	はらぐち かずし 原口 和史	しもぞの こうじ 下園 孝治	うしろやま かずひこ 後山 和彦	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	
担当者実務経験	病院にて医師として勤務	病院にて医師として勤務	病院にて医師として勤務	
教 科 目 目 標	脳神経疾患、骨疾患、血液疾患の病態をふまえ診断や治療を理解し患者の看護実践に必要な基礎的知識をする。			
教 科 目 内 容	脳神経疾患、骨疾患、血液疾患の病態			
授業予定期間	2024 年 4 月～5 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	【骨疾患】原口 和史 ＜骨疾患の診断と治療 原口医師＞ 1 回目：骨折・脱臼、捻挫、骨粗鬆症、骨腫瘍(骨肉腫・軟部組織腫瘍)、 変形性関節症、腰痛疾患（椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症）、 2 回目：麻痺性疾患（脊髄損傷・末梢神経損傷・主な末梢神経損傷） 【脳疾患】下園 孝治 3 回目：脳血管疾患（脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血） 4 回目：神経変性疾患・筋疾患 5 回目：神経系の腫瘍・感染症・てんかん発作 6 回目：感覚神経とその障害（障害ワレンベルグ症候群、脊髄空洞症） 自律神経とその障害（ホルネル症候群） 【血液造血器疾患】後山 和彦 ＜血液・造血器疾患の診断と治療＞ 7 回目：貧血、白血病、白血球減少、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫 8 回目：出血性疾患（血栓性血小板減少症：TTP、免疫性血小板減少性紫斑病：ITP 播種性血管内凝固：DIC）			
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経 (医学書院) 病気が見える(7) 脳・神経 (メディックメディア) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4 血液・造血器 (医学書院)			
受 験 資 格	6 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験 小テスト 態度点にて総合的に判断する (配分：脳疾患：50 点 運動器：25 点 血液造血：25 点)			
備 考				

教 科 目	病態生理学Ⅲ (内分泌疾患・アレルギー疾患・ 膠原病、自己免疫疾患)	時 間 (単 位)	16 時間 (1 単位)
		講義方法	講義形式
講 師	まつき やすまさ 松木 康真	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院にて医師として勤務 医学博士
教 科 目 目 標	内分泌、代謝疾患の病態、免疫やアレルギー・膠原病、自己免疫疾患を理解する。		
教 科 目 内 容	内分泌代謝疾患 免疫アレルギー疾患 膠原病 自己免疫疾患		
授業予定期間	2024 年 6 月～9 月 第 49 期生 2 年次		
授業計画	1 回目：内分泌疾患の概要 2 回目：下垂疾患 3 回目：甲状腺疾患・副甲状腺疾患 4 回目：副腎疾患 5 回目：糖代謝異常（糖尿病） 6 回目：高尿酸血症・脂質異常症・肥満 7 回目：アレルギー・膠原病疾患 アレルギー疾患の治療 （アナフィラキシーショック・花粉症・蕁麻疹・接触性皮膚炎） 8 回目：自己免疫疾患の治療 （ベーチェット病・SLE・関節リウマチ・シェーグレン症候群）		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー 膠原病原病 感染症 (医学書院)		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 小テスト 態度点にて総合的に判断する、		
備 考			

教 科 目	病態と治療Ⅰ（循環器疾患）	時 間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	つしま なおき 築島 直紀	所 属	非常勤講師
		担当者実務経験	臨床にて医師として勤務
教 科 目 目 標	循環器系疾患の病態を学び、看護を行う基礎的知識を習得する。		
教 科 目 内 容	循環器の代表的な疾患に対する病態生理・診断・治療		
授業予定期間	2024 年 4 月～6 月		第 49 期生 2 年次
授 業 計 画	1 回目：循環器疾患に伴う症状と病態生理 ① 胸痛 動悸 呼吸困難 浮腫 チアノーゼ 2 回目：循環器疾患に伴う症状と病態生理 ② 血圧異常 めまい 失神 ショック 3 回目：検査と治療 心電図 画像検査（胸部レントゲン 心血管超音波 CT） 心臓カテーテル検査 内科的治療（薬物療法 食事療法） 外科的治療（心臓カテーテル治療 補助循環虚血性心疾患） 4 回目：心不全 左心不全と右心不全 収縮不全と拡張不全 急性心不全と慢性心不全 5 回目：虚血性心疾患 虚血性心疾患の危険因子 安定冠動脈疾患（狭心症）急性冠症候群（不安定狭心症、急性心筋梗塞） 6 回目：不整脈 徐脈性不整脈（SSS AV ブロック） 頻脈性不整脈（期外収縮 頻拍 AF VF WPW 症候群） 7 回目：弁膜症・心筋症・心膜炎 僧帽弁疾患 大動脈弁疾患 感染性心内膜炎 心タンポナーデ 8 回目：動脈系疾患・静脈系疾患 大動脈瘤 大動脈解離 動脈閉塞性疾患 深部静脈血栓症		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3 循環器 （医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 100 点		
備 考			

教 科 目	病態と治療Ⅱ (腎・泌尿器 生殖器)		時間 (単位)	16 時間 (1 単位)
			講義方法	講義形式
講 師	うしろやま かずひこ 後 山 和彦	もり ひろし 森 博士	いけだ ひでお 池田 英夫	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	
担当者実務経験	病院にて医師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて医師として勤務	
教 科 目 目 標	腎泌尿器・生殖器の病態を学び、看護を行う基礎的知識を習得する			
教 科 目 内 容	1. 腎泌尿器障害 2. 生殖器構造と検査・処置			
授業予定期間	2024 年 7 月～9 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	【腎】 後山 1 回目：腎臓の構造とその障害 2 回目：糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・糖尿病性腎症 【女性生殖器】 森 3 回目：女性生殖器の構造と機能、症状と病態生理 4 回目：診察・検査と治療・処置 【泌尿器】 池田 5 回目：尿管・尿道・膀胱・男性生殖器の構造と機能 症状とその病態生理：尿の異常、排尿に関連した症状（畜尿症状、排尿症状） 疼痛、腫脹・腫瘤、精巣および性機能障害 6 回目：膀胱炎・腎盂腎炎、腎臓がん、腎結石・尿路結石 7 回目：膀胱がん、前立腺肥大症、前立腺がん 8 回目： 精巣腫瘍、陰茎がん、男性不妊症、男性性機能障害、性感染症			
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器 (医学書院)			
受 験 資 格	6 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験 小テストなど (後山 25 点 森 25 点 池田 50 点)			
備 考				

教 科 目	病態と治療Ⅲ (歯科・口腔器・耳鼻科)	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	そのだ あきら 園田 聡	ふじわら ゆ か 藤原 由佳	は ぶ ひであき 土生 秀明
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師
担当者実務経験	病院で歯科医師として勤務	病院で歯科衛生士として勤務	病院で医師として勤務
教 科 目 目 標	疾病や障害の原因、又疾病障害による形態や機能の変化を学び、臨床症状を的確に観察でき、看護を行う基礎的知識を理解できる		
教 科 目 内 容	歯科口腔・耳鼻科の代表的な疾患に対する病態生理・症状・診断・治療法		
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月		第 49 期生 2 年次
授業計画	【歯科口腔疾患】 1 回目～3 回目：園田 4 回目：藤原 1 回目：口腔の解剖 歯科疾患（齲蝕・歯髄炎・歯周炎・炎症性疾患） 2 回目：歯科疾患Ⅱ（歯周炎） 口腔外科疾患Ⅰ（炎症） 3 回目：口腔外科疾患Ⅱ（嚢胞・腫瘍・奇形） 口腔外科疾患Ⅲ（外傷・顎関節・神経疾患） 口腔の看護（まとめ） 4 回目：口腔ケアの実際 【耳鼻科疾患】 土生 5 回目：耳の疾患（聴覚系） 6 回目：耳の疾患（平衡覚系）、鼻の疾患 7 回目：咽頭、喉頭の疾患 8 回目：嚥下障害、その他疾患		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 14 耳鼻咽喉頭 （医学書院） 歯科；講師が準備した資料 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 15 歯・口腔 （医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	筆記試験（歯科 50 点 耳鼻科 50 点）		
備 考			

教 科 目	微生物学	時間（単位）	30 時間（1 単位）	
		講義方法	講義形式	
講 師	ふくいずみ たかき 福 泉 隆喜	所属	非常勤講師	
		担当者実務経験	大学にて助手、講師として勤務 I C Dとして勤務	
教 科 目 目 標	臨床の現場では、感染症の患者の治療だけでなく、感染症以外の患者も院内感染から防ぐ責任がある。したがって、看護師は自分自身への感染を予防するだけでなく、感染を媒介しないように注意をする必要がある。そのためには病原体の性質や発症メカニズムおよび生体の防御機構などの基礎的知識を理解しておく必要がある。 微生物学では、微生物の種類と一般的性質、病原微生物による感染症とそれに対する生体の抵抗力（免疫学）について学ぶ。			
教 科 目 内 容	1. 微生物学の概要 2. 微生物総論 3. 免疫学 4. 抗菌薬			
授業予定期間	2024 年 6 月～11 月第 50 期生 1 年次			
授業計画	回数	項目	授業内容	方法
	1	微生物と微生物学 細菌の性質	微生物を大きさや構造の違いを比較しながら述べる。また、微生物のうち、代表的な細菌について形,大きさや染色性などを述べる。さらに細菌の構造を説明する。	プロジェクターとプリント
	2	細菌の代謝,増殖 真菌原虫	最近の代謝，増殖について説明する。また、真菌や原虫について一般的性質を説明する	プロジェクターとプリント
	3	ウィルスの性質	ウィルスの特徴，構造，増殖，分類などについて説明する	プロジェクターとプリント
	4	感染とその防御	感染の機構，病原性と防御機序，感染の種類について説明する	プロジェクターとプリント
	5	感染に対する生体防御機構 1	免疫の概要を説明する	プロジェクターとプリント
	6	感染に対する生体防御 2	抗体，液性免疫の反応を説明する	プロジェクターとプリント
	7	感染に対する生体防御 3	細胞性免疫，免疫病と免疫寛容，ワクチン，血清療法および免疫グロブリン療法を説明する	プロジェクターとプリント
	8	感染源と感染経路 感染症の予防と診断	滅菌と消毒および感染経路について説明する	プロジェクターとプリント
	9	感染症の治療 感染症の現状と対策	主に抗菌薬について説明する	プロジェクターとプリント
	10	病原細菌と細菌感染症 1	黄色ブドウ球菌，化膿レンサ球菌，肺炎菌などについて説明する	プロジェクターとプリント
	11	病原細菌と細菌感染症 2	大腸菌，結核菌，ヘリコバクター・ピロリ，食中毒関連細菌について説明する	プロジェクターとプリント
	12	病原真菌と病原原虫 の感染症	梅毒トレポネーマ，リケッチア感染症，クラミジア感染症について述べる。病原性真菌，原虫についても説明する	プロジェクターとプリント
	13	主なウィルスとウィルス感染症 1	医学分野での代表的な DNA ウィルスについて特徴と疾患との関係について説明する	プロジェクターとプリント
	14	主なウィルスとウィルス感染症 2	医学分野での代表的な RNA ウィルスについて特徴と疾患との関係について説明する	プロジェクターとプリント
	15	主なウィルスとウィルス感染症 3	ヒト免疫不全ウィルス，肝炎ウィルス，プリオン病について特徴と疾患との関連について説明する	プロジェクターとプリント
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 4 微生物学（医学書院）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験 60 点以上を合格とする			
備 考				

教 科 目	薬理学	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	はしもと ひろかず 橋本 裕数	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院にて薬剤師として勤務
教 科 目 目 標	1. 薬理学の基礎的性状及び作用、適用、調剤に関する初歩的な事柄を理解できる。 2. 代表的な薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解できる		
教 科 目 内 容	1. 薬理学の概念 2. 神経系作用薬 3. 心臓血管系作用薬 4. 呼吸器系作用薬 5. 消化器系作用薬 6. 泌尿器、生殖器系作用薬 7. 皮膚作用薬 8. ホルモン・ビタミン・オータコイド 9. 化学療法 10. 消毒の薬理作用		
授業予定期間	2024 年 4 月～9 月 第 49 期生 2 年次		
授業計画	1 回目：薬理学の概念、薬理作用Ⅰ 導入、受容体、ADME を中心に 2 回目：薬理学の概念、薬理作用Ⅱ 薬効に影響を及ぼす要因を中心に 3 回目：薬理学の概念、薬理作用Ⅲ 有害作用、処方箋について中心に 4 回目：化学療法薬Ⅰ 抗生物質、抗菌薬を中心に 5 回目：化学療法薬Ⅱ 抗癌剤、消毒薬を中心に 6 回目：末梢神経に作用する薬物 7 回目：中枢神経に作用する薬物 8 回目：オータコイド 9 回目：心臓、血圧に作用する薬物 10 回目：血液造血器官に作用する薬物 11 回目：呼吸器、消化器に作用する薬物 12 回目：生殖器、ホルモン関連薬 13 回目：ビタミンと生物学的製剤 14 回目：救急救命薬 15 回目：漢方薬、その他		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学（医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 100 点		
備 考			

教 科 目	食事療法	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	うらさき ひろみ 浦崎 博美	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院にて管理栄養士として勤務
教 科 目 目 標	生体が正常な営みをするために必要な栄養に関する基礎的な知識を学び、疾病や障害に合わせた栄養の意義が理解できる。		
教 科 目 内 容	疾患に関連した栄養食事療法について学ぶ。 栄養管理の重要性と栄養状態のアセスメントの必要性を理解する。		
授業予定期間	2024 年 5 月～7 月		第 49 期生 2 年次
授業計画	1 回目：栄養食事療法の総論 2 回目：症状を持つ患者・呼吸器疾患患者の栄養食事療法 3 回目：循環器疾患・消化器疾患患者の栄養食事療法 4 回目：腎・泌尿器疾患・栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 5 回目：血液疾患・アレルギー疾患患者の食事療法 6 回目：精神・神経疾患・熱傷・褥瘡患者の栄養食事療法 術前術後の栄養管理 7 回目：がん患者の栄養食事療法 妊産婦・更年期女性・小児・高齢者の特徴と栄養 8 回目：医療保険制度・介護保険制度と食事 まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 （医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 100 点		
備 考			

教 科 目	リハビリテーション	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方式	講義・演習形式
講 師	このの 高野 さとし 聡	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院・診療所等にて作業療法士として勤務
教 科 目 目 標	1. リハビリテーション看護の基礎を学び、自立に向けた日常生活援助におけるリハビリテーション看護が理解できる		
教 科 目 内 容	1. リハビリテーション医学の基礎 2. リハビリテーション看護の基礎 3. 日常生活援助におけるリハビリテーション看護と技術		
授業予定期間	2024 年 10 月～11 月 第 49 期生 2 年次		
授業計画	1 回目：リハビリテーション概説 ・リハビリテーションの定義・リハビリテーション医学の特徴 ・目標志向的アプローチ・「生活」の視点・チーム医療・リハビリテーション看護 ・障害について(ICIDH, ICF)・リハビリテーション総合実施計画書 ・リハビリテーションの基本的アプローチ ・リハビリテーションの流れ 急性期～維持期・在宅 2 回目：起居動作。ポジショニング・福祉用具（演習） ・起居動作 ・ポジショニング（臥位・座位などの各姿勢で） ・車椅子の種類や福祉用具の紹介 など 3 回目：移動（演習） ・歩行とは何か？ ・歩行パターン ・歩行補助用具 ・階段昇降 ・車椅子駆動 ・トランスファー介助 など 4 回目：呼吸訓練・排痰（演習） ・呼吸器リハビリテーション ・体位ドレナージ ・聴診 など 5 回目：ADL 訓練（演習）		
教 科 書	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験及び演習への参加状況を含み総合評価とする		
備 考	演習は実習室で行う 実習着に着替え、身だしなみを整えて参加する		

教 科 目	衛生公衆衛生学	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	まつがき 松垣 りゅうたろう 竜太郎	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	研究所にて勤務
教 科 目 目 標	1.予防医学としての衛生公衆衛生学の重要性を認識し、疾病要因を理解する。 2.健康を示す各種指標が持つ意味を理解し、予防医学に応用する視点を習得する。		
教 科 目 内 容	1. 健康と病気の概念および予防医学 2. 疾病要因と生体防御反応 3. 人口動態 4. 環境と生体 5. 産業・労働衛生 6. 感染症 7. 衛生統計 8. 疫学		
授業予定期間	2024 年 10 月～2025 年 2 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	第 1 回目：序論 衛生公衆衛生学とはおよび公衆衛生学の歴史 予防医学の重要性 公衆衛生の活動対象 第 2 回目：公衆衛生のしくみ 国、地方自治体の役割 第 3 回目：疫学・保健統計 I （集団の健康をとらえるための手法） 第 4 回目・5 回目：疫学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 疾病要因の究明方法 患者・対照研究／コホート研究・特殊な調査方法 第 6 回目 第 7 回目：疾病予防と健康管理および主な疾病の予防 疾病のリスク、アセスメント及び予防方法（因果関係と評価） 第 8 回目 第 9 回目：環境と健康 生体内部環境と生体を取り巻く環境 第 10 回目：感染症とその予防対策 第 11 回目：国際保健 第 12 回目：地域における公衆衛生の実践 第 13 回目：学校・職場と健康 第 14 回目：健康危機管理・災害保険 第 15 回目：まとめ（予防医学の重要性の再認識）		
教 科 書	公衆衛生（医学書院） 国民衛生の動向 2023／2024（厚生統計協会） 講師が提供する資料		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（100 点）		
備 考	注 1）講義の順序と配分は理解度及びトピックにより一部順序を入れ替えることがある。 他の専門教科目と重複する内容は重要度を思料して講義を簡潔にする場合がある。		

教 科 目	社会福祉 I		時間（単位）	16 時間（1 単位）	
			講義方法	講義形式	
講 師	た ごもり あきひろ 田 箆 亮博	た むら あきひこ 田村 昭彦	みずおち ひろこ 水落 祐子	外部講師	やまもと き み こ 山本 規美子
所属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	専任教員
担当者実務経験	弁護士として勤務	病院にて医師として勤務	病院にて MSW として勤務	外部講師	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	基本的人権と社会福祉について、外部講師講義を通じてより実践的に理解を深め、具体的課題を検討する。				
教 科 目 内 容	日本の社会福祉の実態、差別と人権の歴史や現状、憲法と社会福祉、健康権、患者をめぐる社会保障の現状				
授業予定期間	2024 年 7 月～9 月		第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目 ガイダンス/映画 山本 規美子 2 回目 映画 山本 規美子 3 回目 憲法と社会福祉 田箆 亮博 弁護士 4 回目 基本的人権と健康権 田村 昭彦 医師 5 回目 基本的人権と医療 水落 祐子 MSW 6 回目 基本的人権 外部講師 7 回目 グループワーク 山本 規美子 8 回目 まとめ発表 山本 規美子 *各講義は課題レポート（感想文）提出が課される。				
教 科 書	特に指定しない				
受 験 資 格	6 回以上出席				
評 価 方 法	出席状況と課題レポート（感想文）で総合的に評価する				
備 考					

教 科 目	社会福祉Ⅱ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	かわしま しずよ 河嶋 静代	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて教授として勤務
教 科 目 目 標	1. 社会福祉や社会保障の理念と基本的な制度について理解する。生活問題に対応する社会福祉の方法について学び、看護の場に活用できるようにする。		
教 科 目 内 容	1. 社会福祉の概念 2. 社会福祉の理念 3. 社会福祉の構造 4. 生活問題と社会福祉 5. 社会福祉の制度 6. 医療と保険制度 7. 社会福祉の分野とサービス 8. 社会福祉の実践 9. 社会福祉と医療の連携		
授業予定期間	2024 年 4 月～9 月		第 49 期生 2 年次
授業計画	1 回目：社会福祉の概念 2 回目：生活問題とソーシャルワーク 3 回目：ケースワークの原則 4 回目：社会福祉の理念と思想 5 回目：生活保護法 6 回目：社会保障 7 回目：子どもの権利条約、児童虐待 8 回目：ドメスティック・バイオレンスとデートDV 9 回目：4 つの虐待に関する法律（高齢者虐待、障害者虐待、DV、児童虐待） 10 回目：老人福祉の制度と介護保険 11 回目：性の多様性への理解 12 回目：母子保健とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ 13 回目：障害者福祉の制度 14 回目：社会福祉と医療との連携 15 回目：まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉（医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上出席		
評 価 方 法	提出物 10% 試験 90%		
備 考			

教 科 目	社会保険	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	もりかわ なおこ 森川 尚子	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院にてメディカルソーシャルワーカーとして医療社会科勤務
教 科 目 目 標	現代社会の変化と制度の動向について理解したうえで、看護実践に関連の深い社会保障制度について理解する。		
教 科 目 内 容	人権としての社会保障制度について学びを深め、社会の変化と社会保障制度の変遷を学ぶ。看護に必要な社会保障制度について理解した上で、事例を通して制度の活用の実際を知る。		
授業予定期間	2024 年 10 月～12 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1 回目：日本国憲法と社会保障制度・社会福祉 2 回目：現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 3 回目：医療保障 4 回目：介護保障 5 回目：所得保障 6 回目：公的扶助 7 回目：社会保障の実際 8 回目：社会保障の実際		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 3 社会保障・社会福祉（医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上出席		
評 価 方 法	終講試験（100 点）		
備 考			

教 科 目	関係法規	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	おの のりあき 小野 憲昭	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	大学にて教授として勤務
教 科 目 目 標	衛生行政の根拠となる関係法規全般の知識を学び、保助看法、医療法を中心に法令の基本を理解する。		
教 科 目 内 容	1. 法の概念 2. 看護法 3. 医事法 4. 保健衛生法 5. 薬務法 6. 社会保険法・福祉法 7. 労働法 8. 環境法		
授業予定期間	2024 年 10 月～11 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目：法の概念－法の特質、機能、分類、存在形式、衛生法、看護法の位置と役割 2 回目：看護法①－保健師助産師看護師法の沿革、目的、定義、構造、看護師等の免許取得要件、業務 3 回目：看護法②－試験、学校・養成所及び看護師等の人材確保促進法、看護師に求められる役割 4 回目：看護法③－医療事故と医療過誤 5 回目：医療法①－医療提供の理念、提供体制に関する法、患者の同意と自己決定 6 回目：医療法②－医師法等の医療関係資格法、医療・介護体制に関する法 7 回目：医療法③－医療を支える法、薬務法 8 回目：労働法と社会基盤整備諸法 その他、必要に応じて保健衛生法や福祉法等のお話をするもあります。		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令（医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 60%、レポート 30%、授業への参加度 10%。		
備 考	皆さんが将来従事される医療の世界のシステムやその内容の話とともに、国家試験にも対応できる話をするつもりです。休まず出席してください。		

教 科 目	医療概論	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	まつき やすまさ 松木 康真	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院にて医師として勤務 医学博士
教 科 目 目 標	生命を尊ぶ心、死を悼む心、健やかに生きること、おだやかに死ぬことについて考え深め、医学の歴史的変遷と現代医療の概観を理解する。現代社会の諸問題について理解してうえで、経済学、政策の観点から医療について考えられるようになる。		
教 科 目 内 容	医学の歴史的変遷 医療の歩みと先端医療、医療倫理、現代医療の発展と課題		
授業予定期間	2024 年 11 月～2025 年 2 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	第 1 回 第 1 章 生命を尊ぶ心 第 2 回 第 1 章 健やかに生きる 第 3 回 第 1 章 終末期を考える 第 4 回 第 2 章 医学と医療 第 5 回 第 3 章 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化 第 6 回 第 4 章 わが国の医療システム 第 7 回 第 4 章 社会と医療（医の倫理） 第 8 回 第 5 章 医療経済学と医療政策 1. 教科書に沿った上記内容で 8 回講義する 2. パワーポイント使用の講義及び関連 DVD の視聴 3. 毎回小レポートを課し、テーマについての意見を求める		
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 1 医療概論 （医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上出席		
評 価 方 法	レポート、授業中の発言ポイント、終講試験で総合評価		
備 考			

教 科 目	看護学概論	時間数（単位数）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	しきた みわ 敷田 美和	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 看護の変遷をふまえ、看護とは何かを学ぶことによって、看護の独自性や専門性について理解する。 2. 看護と深くかかわる「人間」「環境」「健康」について、広い視野から理解する。 3. 健康に障害を持つ人の、身体的・心理的・社会的特徴について概要を理解する。 4. 国民の健康・生活の全体像の把握を衛生統計及び健康指標と関連づけて理解できる。 5. 看護における連携と協働について理解する。 6. 専門職として、自己のキャリア形成の展望を持つ。		
教 科 目 内 容	1. 看護の原点と変遷 2. ナイチンゲールと「看護覚書」 3. 看護の役割と機能 4. 看護の対象（人間） 5. 健康とは何か 6. 国民の健康状態と生活 7. 看護における連携と協働 8. 看護職のキャリア開発		
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目：看護を学ぶにあたって 2 回目：看護の変遷 3 回目：日本における看護の歴史 4 回目：ナイチンゲールと「看護覚書」① 5 回目：ナイチンゲールと「看護覚書」② 6 回目：看護とは／看護の定義 7 回目：看護とは／看護の役割と機能 8 回目：看護とは／看護の継続性と連携 9 回目：看護の対象の理解① 10 回目：看護の対象の理解② 11 回目：国民の健康状態と生活 12 回目：看護職の資格・養成制度・就業状況 12 回目：看護職の養成制度と就業状況 13 回目：看護職者の継続教育とキャリア開発 14 回目：} DVD 視聴（スクール・オブ・ナースィング） 15 回目：} グループワーク・まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 1 看護学概論 （医学書院） 看護覚え書 （現代社）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	出席状況、レポート、終講試験		
備 考			

教 科 目	基礎看護技術		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義・学内実習形式
講 師	やまもと 山本 ひとみ	なかにし まこと 中西 誠	ふじもと 藤本 ゆり	
所 属	専任教員	専任教員	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	看護技術の概要と学習方法を理解し、看護実践に共通する技術について学ぶ。			
教 科 目 内 容	1．コミュニケーション 2．スタンダードプリコーション 3．環境調整技術 4．ボディメカニクス、体位変換			
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月		第 50 期生 1 年次	
授業計画	< コミュニケーション：山本 > 1 回目（講義） コミュニケーションの構造とプロセス 2 回目（講義） コミュニケーション技法 （言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション） 3 回目（講義・演習） コミュニケーションに障害のある人々への対応 < 安全管理：中西 > 4 回目（講義） 感染の成立と予防 5 回目（講義） 標準予防策 と 感染経路別予防策 6 回目（学内実習）スタンダードプリコーションの実際 手洗い、エプロン、手袋の装着脱 < 体位変換：藤本 > 7 回目（講義） 活動の意義 活動に影響する要因 8 回目（講義） ボディメカニクス 9 回目（学内実習） 体位変換① 10 回目（学内実習） 体位変換② 安全な療養環境の整備（転倒転落外傷予防） < 環境整備：中西 > 11 回目（講義） 環境調整の意義・援助の基礎知識 12 回目（講義） 病床を整える 13 回目（学内実習） ベッドメイキング 14 回目（学内実習） 臥床患者のリネン交換、患者誤認防止策（ネームバンドの確認） 15 回目（技術試験）臥床患者のリネン交換 （転倒転落、外傷予防、ネームバンドの確認をチェック項目に含む）			
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術（メディックメディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験（コミュニケーション 20 点 感染 20 点 体位変換 20 点 環境 30 点） 技術試験 10 点			
備 考	到達レベルⅠの技術項目に関しては、学内実習の授業時間内で技術チェックを行う。			

教 科 目	日常生活援助技術Ⅰ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・学内実習形式
講 師	ふじもと 藤本 ゆり	やまもと 山本 ひとみ	や の 矢野 さゆり
所 属	専任教員	専任教員	専任教員
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	生活援助技術である食と排泄と移動の援助技術の基本を学ぶ		
教 科 目 内 容	食事の援助技術 排泄援助技術 活動・休息援助技術		
授業予定期間	2024 年 5 月～2025 年 2 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	< 食事の援助技術：山本 > 1 回目（講義）食事と栄養の意義 健康な食生活と食事摂取基準 治療食、療養食 食事と栄養に影響する要因 2 回目（学内実習）食事介助 3 回目（講義）嚥下について、嚥下障害のある人への援助、経管経腸栄養法 経静脈栄養法 4 回目（学内実習）経管栄養法 5 回目（学内実習）経管栄養法 6 回目（技術試験）経管栄養法 < 排泄援助技術：矢野 > 7 回目（講義）排泄の意義、排泄に影響する要因、自然な排泄を促す援助 トイレ、ポータブルトイレでの排泄援助 8 回目（学内実習）床上での排泄援助の実際（便器、尿器での介助） 9 回目（学内実習）オムツ交換 10 回目（講義）自然な排便が困難な人への援助、尿失禁・便失禁のある人への援助 11 回目（学内実習）グリセリン浣腸、摘便 12 回目（技術試験）オムツ交換 < 活動・休息の援助技術：藤本 > 13 回目（講義）休息と睡眠の意義、休息と睡眠に影響する要因、 療養生活におけるレクリエーション、活動と運動を促す援助 14 回目（学内実習）安楽な姿勢、体位保持（ポジショニング） 15 回目（学内実習）安楽を提供するためのケア（電法、リラクセーション法）		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術（メディックメディア）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	レポート、終講試験（食事：30 点 排泄：30 点 活動休息 20 点）、技術試験各 10 点		
備 考	到達レベルⅠの技術項目に関しては、学内実習で技術チェックを行う。		

教 科 目	日常生活援助技術Ⅱ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・学内演習形式
講 師	いしきこ 石迫 みどり	ふじもと 藤本 ゆり	
所 属	専任教員	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	生活援助技術である身体の清潔援助技術の基本とバイタルサイン測定技術を身に付ける		
教 科 目 内 容	清潔・衣生活援助技術 バイタルサイン測定技術		
授業予定期間	2023 年 5 月～2024 年 2 月	第 50 期性	1 年次
授業計画	< 清潔・衣生活援助技術：石迫 > 1 回目（講義） 身体清潔に関する看護技術③ ・身体清潔の援助（全身清拭・陰部洗浄） 2 回目（学内実習） 全身清拭、点滴ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換 3 回目（学内実習） 全身清拭 4 回目（学内実習） 陰部洗浄 5 回目（講義） 身体清潔に関する看護技術① ・身体清潔の援助（入浴・洗髪） 6 回目（学内実習） 洗髪 7 回目（講義） 身体清潔に関する看護技術② ・皮膚の構造と機能・身体清潔の意義・衣生活 ・身体清潔の援助（口腔ケア・部分浴・点滴ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換） 8 回目（学内実習） 部分浴、口腔歯牙の清潔 9 回目（技術試験）全身清拭、点滴ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換 < バイタルサイン測定：藤本 > 10 回目（講義） バイタルサインとは 体温と呼吸 11 回目（講義） 脈拍と血圧 12 回目（講義） 血圧測定の援助 13 回目（学内実習） 血圧測定 14 回目（学内実習） バイタルサイン測定 15 回目（学内実習） バイタルサイン測定		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術（メディックメディア） 看護が見える③フィジカルアセスメント（メディックメディア）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	レポート、終講試験（清潔：50 点 バイタルサイン測定：40 点）、技術試験 10 点		
備 考	到達レベルⅠの技術項目に関しては、学内実習で技術チェックを行う。		

教 科 目	診療の補助技術Ⅰ		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義・学内実習形式
講 師	やまだ ゆみ こ 山田 由美子	とみなが しん や 富永 進也	なかにし まこと 中西 誠	
所 属	専任教員	非常勤講師	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて WOC 認定看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	看護実践に共通する生体機能のモニタリングの方法と看護の役割、呼吸・循環について知る。			
教 科 目 内 容	診察・検査時の看護師の役割、検体検査、生体検査			
授業予定期間	2024 年 10 月～ 2025 年 2 月		第 50 期生 1 年次	
授業計画	< 診察・検査の介助> 山田 1 回目（講義）検査とは 診察・検査時の看護師の役割 生体検査の介助（X 線検査、CT、MRI、内視鏡検査、超音波検査、心電図、肺機能検査、核医学） 検体検査（尿検査、便検査、喀痰検査、SpO2 モニター） 2 回目（講義）検体検査の介助（胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺） 3 回目（講義・演習）包帯法 < 死の看取りの援助> 山田 4 回目 （講義）死にゆく人と周囲の人々へのケア キュープラー＝ロスによる 5 段階のプロセス グリーフケア 5 回目 （講義）日本文化のなかの葬送儀礼、死後の処置 < 呼吸・循環を整える技術> 中西 6 回目（講義） 酸素吸入の適応と方法 7 回目（講義） 排痰法の適応と方法 （ネブライザー吸入、ハフィング、体位ドレナージ） 8 回目（講義） 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法 9 回目・10 回目（学内実習）酸素吸入、ネブライザー吸入と体位ドレナージ 一時的吸引（口腔、鼻腔、気管内） 11 回目・12 回目（技術試験）ネブライザー吸入、酸素吸入 < 創傷管理技術> 富永 13 回目（講義） 創傷治癒過程とアセスメント 14 回目（講義） 褥瘡の予防と治癒の促進 15 回目（学内演習） 洗浄、保護			
科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術 ② 臨床看護技術（メディックメディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験（診察・検査 20 点、死の看取り 10 点、呼吸・循環 30 点、創傷管理 20 点） 技術試験 20 点 レポート			
備 考	到達レベルⅠの技術項目に関しては、学内実習の授業時間内で技術チェックを行う。			

教 科 目	診療の補助技術Ⅱ		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義・学内実習形式
講 師	かながわ なおこ 金川 尚子	いしきこ 石迫 みどり	やまだ ゆみこ 山田 由美子	やぎ さとこ 八木 聡子
所 属	専任教員	専任教員	専任教員	専任教員
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1．診療に伴う援助に関する基礎知識を述べることができる。 2．診療に伴う基本技術を安全・安楽に実施できる。			
教 科 目 内 容	無菌操作、与薬法（注射法）静脈血採血、導尿、膀胱留置カテーテルの挿入・管理			
授業予定期間	2024 年 4 月～10 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	< 感染予防技術 > 金川 1 回目（講義）洗浄・消毒・滅菌法・無菌操作 2 回目（学内実習）無菌操作（滅菌物の取り扱い、鑷子等の取り扱い、 感染性廃棄物取り扱い、使用した器具の感染防止の取り扱い） 3 回目（学内実習）無菌操作 < 排泄援助技術 2 > 石迫 4 回目（講義）尿失禁のある人への援助、一時的導尿、持続的導尿 5 回目（学内実習）一時的導尿 6 回目（学内実習）膀胱留置カテーテルの挿入と管理 < 症状・生体機能管理技術 2 > 山田 7 回目（講義）検査と看護 8 回目（学内実習）静脈血採血、針刺し事故の防止、事故後の対応の方法確認 9 回目（学内実習）静脈血採血 < 与薬の技術 > 八木 10～11 回目（講義）与薬における看護師の役割、薬剤の種類と取り扱い法、 与薬方法と効果の観察、経口薬の投与、経皮外用薬の投与 12～15 回（学内実習）注射器と取り扱い、皮下注射、筋肉内注射、 点滴静脈内注射、点滴静脈内注射の管理 （点滴等留置している患者の寝衣交換）			
科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護がみえる①基礎看護技術 ② 臨床看護技術（メディックメディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験（感染予防 20 点 排泄 20 点 検査 20 点 与薬 40 点） 時間内技術チェック			
備 考				

教 科 目	看護過程	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	かながわ なおこ 金川 尚子	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 模擬患者を用いて、看護過程を展開することができる。 2. グループワークを通して、互いの意見を尊重し、議論することができる。		
教 科 目 内 容	看護過程 記録と報告の技術		
授業予定期間	2024 年 10 月～2025 年 3 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	【看護過程展開の技術】 1 回目 授業ガイダンス 看護過程における 5 つの構成要素 看護過程とは ＜大腿骨頸部骨折術前患者の事例をみて看護計画を考える＞ 2 回目 事例のプロフィールの記入 3 回目 事例のアセスメントを書いてみる（生活像） 4 回目 看護問題の明確化、計画立案の方法 5 回目 記録とは 6 回目 SOAP 記録 グループワークのオリエンテーション 7 回目～15 回目は以下の進度でグループワークを行う。（肺炎事例） 7 回目 模擬患者からの情報収集 8 回目 情報収集用紙の記入の確認 9 回目 アセスメント① 10 回目 アセスメント② 問題点の抽出 11 回目 看護問題の抽出、優先順位とする根拠、問題リスト 12 回目 看護計画の立案① 13 回目 看護計画の立案② 14 回目 シミュレーション演習（実習室） 15 回目 看護計画の評価 ＜事前学習内容＞ グループワークは、肺炎事例で行う。カルテからの情報収集で必要な用語や疾患看護の学習項目を配布、8 回目のグループワーク終了後に提出。		
教 科 書	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント（学研）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 50 点 事前学習・レポート 20 点 グループワーク課題 30 点		
備 考			

教 科 目	ヘルスアセスメント	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・学内実習方式
講 師	かながわ なおこ 金川 尚子	やまもと 山本 ひとみ	たかくら とうこ 高倉 東子
所 属	専任教員	専任教員	専任教員
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. フィジカルアセスメントを看護援助に活用する目的と意義を説明できる。 2. フィジカルイグザミネーションを正確かつ安全に実施できる。 3. 問診とフィジカルイグザミネーションの実施により、対象者の健康状態をアセスメントできる。		
教 科 目 内 容	フィジカルイグザミネーション・フィジカルアセスメント		
授業予定期間	2024 年 6 月～11 月		第 49 期生 2 年次
授業計画	< 1～6 回：金川 > 1 回目（講義） ガイダンス 問診とフィジカルイグザミネーション 2 回目（学内実習） バイタルサイン値の異常とアセスメント、身体計測 3・4 回目（講義） 呼吸器系、循環器、腹部フィジカルアセスメント 5・6 回目（学内実習） 呼吸器・循環器・腹部のフィジカルイグザミネーション < 7～10 回：高倉 > 7・8 回目（講義） 顔面・頸部・感覚器・筋・骨格系および神経系の フィジカルアセスメント 9・10 回目（学内実習） 顔面・頸部・感覚器・筋・骨格系および神経系の フィジカルイグザミネーション < 11 回～15 回：山本 > 11・12 回目（講義・ワーク） 呼吸器疾患・消化器疾患患者のフィジカルアセスメント 13 回目（シミュレーション演習） 呼吸器疾患患者の看護 14 回目（シミュレーション演習） 消化器疾患患者の看護 15 回目（講義・ワーク） アセスメントのポイント、記録の書き方		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I （医学書院） 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント （メディックメディア）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	筆記試験 75 点 事前課題レポート 20 点 聴診テスト 5 点		
備 考			

教 科 目	臨床看護総論	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	いしきこ 石迫 みどり	たけしげ まさみ 竹重 真佐美	
所 属	専任教員	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	1.健康状態の経過に基づく看護の概略を理解する。 2.主要な症状を示す患者の看護の概略を理解する。（症状発生機序を理解する） 3.治療処置を受ける患者の看護の概略を理解する。 4.関連図作成を通して、看護の実践展開の概要が理解できる。		
教 科 目 内 容	1. 経過別看護 2. 症状別看護 3. 治療・処置別看護 4. 看護実践の展開		
授業予定期間	2024 年 11 月～2025 年 2 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	1 回目：ガイダンス 2 回目～5 回目：各期の特徴・治療処置別、経過別に対する看護 （グループワーク・発表会） 6 回目：健康期の看護＜講義＞（石迫） 1）健康期のあらゆる対象 2）健康の維持増進を目指す看護 3）健康行動の変容を説明するモデル 7 回目：急性期にある患者と家族の特徴と看護＜講義＞（竹重） 1）急性期における看護の基本 2）患者と家族の特徴（心理的特徴・社会的特徴・身体的特徴） 3）危機的状態への精神的支援 治療の緊急性と優先度 4）治療選択・意思決定への支援 代理意思決定支援 8 回目：回復期・リハビリテーション期の特徴と看護について＜講義＞ 1）回復過程における対象の特徴、回復に影響する身体的・心理・社会的要因 2）障がい者分類 3）障害受容過程 4）セルフケア獲得のための過程・退院支援 9 回目：慢性期の看護 1）慢性疾患がある患者と家族の特徴 2）慢性疾患の特徴 慢性疾患とともにある生活 慢性疾患の治療と看護の基本 3）治療選択・意思決定への支援 継続的な支援体制と連携 4）セルフケア・自己管理への看護 10 回目：終末期の看護＜講義＞・今後の進め方について（グループワーク・評価方法） 1）終末期医療の現状 2）終末期患者の症状と看護 3）緩和ケアについて 4）グリーフケア 11～14 回目：関連図作成による看護実践展開・発表会（合同） （担当事例の情報整理と関連図作成問題リスト作成の実施） 15 回目：まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論（医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（グループワーク態度・成果物・レポート点含む） 配点：石迫 90 点 竹重 10 点		
備 考			

教 科 目	看護研究Ⅰ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義形式	講義・演習・論文作成形式
講 師	う え だ や す こ 上 田 泰 子	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 看護実践と看護研究の関連について理解する。 2. 看護実践での学びを事例研究としてまとめるための基礎知識を習得できる。		
教 科 目 内 容	1. 看護研究とは 2. 事例研究とは 3. 研究計画書について 4. 文献検索と活用 5. 倫理的配慮 6. 論文の書き方		
授業予定期間	2024 年 10 月～12 月 第 49 期生 2 年次		
授業計画	1 回目 看護研究とは 演習：論理的思考を鍛えよう 2 回目 事例研究とは 演習：基礎看護学実習Ⅲを振り返ろう 3 回目 研究における文献の活用 演習：文献検索の実際 4 回目 研究計画書、研究における倫理的配慮 5 回目 論文における文章の書き方 6 回目 事例研究論文の構成と内容 7 回目 論文発表と講評 8 回目 演習：倫理的配慮 まとめ ※事例研究論文作成について 1. 成人看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰで受けもった患者の事例研究を行う。 2. 上記実習の終了後、指定された期間内に「事例研究計画書」を作成し、指導を受ける。 3. 事例研究論文の作成は春期休暇中に行う。 4. 作成した事例研究論文は看護研究Ⅱで指導・発表・評価となる。		
教 科 書	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験・演習態度・課題の提出状況		
備 考			

教 科 目	看護研究Ⅱ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク・論文作成形式
講 師	うえだ やすこ 上田 泰子	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	看護実践と看護研究の関連性や事例研究の進め方の基本について理解し、論文作成から発表迄の事例研究過程を体験的に学ぶ。		
教 科 目 内 容	看護研究・発表		
授業予定期間	2024 年 4 月～2024 年 5 月 第 48 期生 3 年次		
授業計画	1. ガイダンス 2. 論文指導 3. 論文指導 4. 論文修正 5. 論文修正・抄録作成 6. 抄録作成・グループ内発表説明 7. グループ内発表 8. 発表補助手段・発表原稿作成 9. 発表補助手段・発表原稿作成 10. 発表補助手段・発表原稿作成 11. 発表原稿作成・講評グループワーク説明 12. 講評グループワーク 13. 発表会リハーサル 14. 発表会 15. 発表会		
教 科 書	系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	論文、抄録、発表補助手段、発表用原稿および参加状況（提出物の提出状況・グループワーク参加態度）によって評価する。場合により減点することもある。		
備 考			

教 科 目	地域と暮らし	時間（単位）	30 時間(1 単位)
		講義方法	講義・フィールドワーク形式
講 師	よしまつ やすこ 吉松 保子	所属	専任教員
		担当者実務経験	訪問看護ステーションにて 看護師として勤務
教 科 目 目 標 ・ ねらい	暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解できる。地域包括ケアシステムについてイメージでき、フィールドワークを通し地域コミュニティへの参加や、地域概況について理解できる。人の生きていくプロセスから、暮らしや生活が健康に与える環境の理解につなげたい。		
教科目内容	1. 人のライフサイクルと暮らしについて 2. 健康に影響する要因 3. 社会・生活に基盤と健康 4. 地域包括ケアシステム(自助・互助・共助・公助)		
授業予定期間	2024 年 11 月～2025 年 2 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目 地域・在宅看護の対象となる人々 人の生きていくプロセスから暮らしをイメージする 2 回目 暮らしと地域のかかわり 3・4 回目 地域包括ケアシステムについて 地域看護・地域包括ケアシステム（自助・互助・共助・公助） 5・6 回目 フィールドワーク① (吉松・手光) 7 回目 グループワーク 8 回目 発表 9 回目 フィールドワーク②準備 10・11 回目 フィールドワーク② (吉松・手光) 地域について調べる 地域 MAP を作成 12・13 回目 グループワーク 14 回目 1・2 組合同発表 15 回目 まとめ		
教科書	基礎からわかる 地域・在宅看護論（照林社）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験・出席状況・レポートの総合評価		
備 考	5 回目～14 回目 在宅領域担当教員(手光)と共に指導を行います。		

教 科 目	地域・在宅看護論概論Ⅰ	時間(単位)	16 時間(1 単位)
		講義方式	講義形式
講 師	よしまつ やすこ 吉松 保子	てびか えりこ 手光 枝利子	
所 属	専任教員	専任教員	
担当者実務経験	訪問看護ステーションにて看護師として勤務	介護支援専門員として勤務	
教 科 目 目 標	1. 在宅看護の特徴と地域でする人々とその家族について理解できる 2. 地域・在宅看護論に関連する法と制度について理解できる 3. 地域包括ケアシステムについて理解を深める事ができる 4. 在宅看護における安全と健康危機管理について理解できる		
教 科 目 内 容	1. 在宅看護の対象 2. 在宅看護の目的と特性 3. 地域・在宅療養を支える仕組み 4. 医療保険・介護保険制度と施策 5. 訪問看護制度の法的枠組み 6. 訪問看護の仕組みと提供 7. 在宅の日常生活の安全管理と災害時の在宅療養者と家族の健康危機管理		
授業予定期間	2024 年 4 月～ 6 月		第 49 期生 2 年次
授業計画	1 回目 在宅看護の変遷と特徴 (吉松) 2 回目 在宅療養者と家族の支援 (吉松) 3・4 回目 地域療養を支える制度 (吉松) ・医療保険と介護保険制度と施策、障害者などに関する法と施策 ・地域包括ケアシステムにおける看護の役割 5・6 回目 在宅療養を支える訪問看護 (吉松) 7・8 回目 在宅看護における安全と健康危機管理 (手光)		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 (医学書院)		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	試験・出席状況・レポートの総合評価		配点：吉松 80 点 手光 20 点
備 考			

教 科 目	地域・在宅看護論概論Ⅱ			時間（単位）	16 時間(1 単位)
				講義方法	講義形式
講 師	よしまつ やすこ 吉松 保子	てびか えりこ 手光 枝利子	たむら み な 田村 美奈	かわむら きょうこ 河村 京子	やぶうち さ おり 藪内 里織
所 属	専任教員	専任教員	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師
担当者実務経験	訪問看護ステーションにて看護師として勤務	介護支援専門員として勤務	病院にて看護師として勤務	訪問介護員として勤務	介護支援専門員として勤務
教 科 目 目 標	1. 看護が提供される多様な場について理解できる 2. 退院支援と継続看護について理解できる 3. 地域包括ケアシステムにおける多職種の連携・協働の意義について理解できる 4. 在宅療養者の病期に応じた看護について理解できる				
教 科 目 内 容	1. 多職種連携、退院支援と継続看護 2. 居宅サービス 3. 地域密型サービス 4. 地域包括支援センター 5. 自己決定支援(ACP 含む) 6. 病気に応じた介入時期と看護の継続性				
授業予定期間	2024 年 6 月～ 9 月			第 49 期生 2 年次	
授業計画	1 回目 多職種連携 (吉松) 2 回目 地域包括ケアシステムにおける在宅支援と継続看護 (吉松) 3 回目 退院支援 (田村) 4 回目 ホームヘルパーの役割と多職種との連携 (河村) 5 回目 ケアマネジャーの役割と多職種との連携 (藪内) 6・7・8 回目 健康各期(移行期・安定期・急性増悪期・終末期)にある療養者の看護 (手光)				
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 (医学書院)				
受 験 資 格	6 回以上の出席				
評 価 方 法	試験・出席状況・レポートの総合評価 配点：吉松 70 点 手光 30 点				
備 考					

教 科 目	地域・在宅看護論方法論Ⅰ			時間（単位）	16 時間(1 単位)
				講義方法	講義・学内実習 形式
講 師	てびか えりこ 手光 枝利子	よしまつ やすこ 吉松 保子	おがわ けいこ 小川 恵子	いで かすみ 井手 香壽美	じくや けいこ 軸屋 恵子
所 属	専任教員	専任教員	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師
担当者実務経験	介護支援専門員として勤務	訪問看護ステーションにて看護師として勤務	訪問看護ステーションにて看護師として勤務	訪問看護ステーションにて看護師として勤務	訪問看護ステーションにて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 暮らしの場で行われる日常生活及び医療管理技術について理解できる				
教 科 目 内 容	1. 在宅における療養生活支援の方法と看護技術 2. 在宅における医療管理の方法と看護技術				
授業予定期間	2024 年 8 月～9 月 第 49 期生 2 年次				
授業計画	【在宅における日常生活援助】 1 回目 食事（学内実習）（小川） 2 回目 排泄（学内実習）（井出） 3 回目 清潔（学内実習）（軸屋） 4 回目 移動（学内実習）（吉松・手光） 【在宅における医療処置】 5・6 回目 在宅酸素療法・人工呼吸療法（NPPV）（手光・吉松） 7 回目 人工呼吸療法（TPPV）・褥瘡ケア（手光） 8 回目 在宅中心静脈栄養法・服薬支援（手光）				
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践（医学書院）				
受 験 資 格	6 回以上の出席				
評 価 方 法	試験・学内実習・出席状況・レポートの総合評価（配点：吉松 50 点・手光 50 点）				
備 考					

教 科 目	地域・在宅看護論方法論Ⅱ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	てびか えりこ 手光 枝利子	所属	専任教員
		担当者実務経験	介護支援専門員として勤務
教 科 目 目 標	在宅看護の展開のプロセスが理解できる		
教 科 目 内 容	看護過程の展開		
授業予定期間	2024 年 9 月 ～ 11 月		第 49 期生 2 年次
授業計画	【 筋萎縮症側索硬化症（ALS）療養者の看護過程 】 1 回目 在宅看護の看護過程 情報収集 2 回目 プロフィール 3 回目 アセスメント（個人） 4 回目 アセスメント（グループワーク） 5 回目 アセスメント（グループワーク） 6 回目 アセスメント・問題リスト作成（グループワーク） 7 回目 発表会 8 回目 まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 （医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	試験・学内実習・出席状況・レポートの総合評価 配点：手光 100 点		
備 考			

教 科 目	地域・在宅看護論方法論Ⅲ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク シミュレーション形式
講 師	てびか えりこ 手光 枝利子	よしまつ やすこ 吉松 保子	さもと えりか 佐本 エリカ
所属	専任教員	専任教員	非常勤講師
担当者実務経験	介護支援専門員として勤務	訪問看護ステーションにて 看護師として勤務	訪問看護ステーションにて 看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 各対象別の療養者の看護と社会資源が理解できる 2. 訪問看護ステーション実習に臨む態度を養うことができる		
教 科 目 内 容	1. 在宅での特徴的な疾患の看護と社会資源 2. 訪問看護の実際		
授業予定期間	2024 年 4 月～2024 年 5 月 第 48 期生 3 年次		
授業計画	1・2 回目 認知症高齢者の在宅看護 (手光) 3 回目 精神疾患を持つ療養者の看護 (手光) 4 回目 在宅療養中の子どもと家族の看護 (手光) 5 回目 終末期の在宅看護 (佐本) 6 回目 在宅療養者の講話 (手光) 7・8 回目 訪問看護の実際 (吉松・手光)		
教 科 書	地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ (メディカ出版) 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 ナーシング・グラフィカ (メディカ出版)		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	試験・出席状況・レポートの総合評価 (配点：手光 80 点・吉松 20 点)		
備 考			

教 科 目	成人看護学概論	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	たかくら とおこ 高倉 東子	所 属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教科目標	成人各期にある対象を身体的・心理・社会的側面から総合的にとらえ、成人看護の役割と目標について理解する。		
教科内容	1. 成人の特徴 2. 成人に特有な健康問題 3. 成人保健の動向 4. 健康の保持増進・疾病の予防に向けた看護（健康日本 21） 5. 成人期の各理論		
授業予定期間	2024 年 6 月 ～ 10 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目～3 回目：成人期にある人の理解（課題を踏まえてのグループワークと発表会） 4 回目：成人の生活を理解する 5 回目：成人の職業と健康障害 6 回目：成人のストレスと健康障害 7 回目：成人の危機と適応 8 回目：成人とセルフケア 9 回目：成人の学習（アンドラゴジー） 10 回目：成人の自己効力・エンパワメントアプローチ 11 回目：成人の症状マネジメント 12 回目：成人と生活習慣病 13 回目：成人の日本における健康対策（健康日本 21） 14 回目：成人の健康観とヘルスプロモーション 15 回目：成人の健康の動向と保健		
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 成人看護学総論 （医学書院） 国民衛生の動向 （厚生労働衛生協会）		
受験資格	10 回以上の出席		
評価方法	授業中の態度 レポート提出 筆記試験 （高倉：100 点）		
備考			

教 科 目	成人看護学方法論Ⅰ（循環器・急性期）		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義形式
講 師	うめざき のぞむ 梅崎 望	はら まいこ 原 舞子	わかき まさと 若木 勝斗	たけしげ まさみ 竹重 真佐美
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	専任教員 救急救命士
担当者実務経験	集中ケア認定看護師として 病院勤務	救急看護認定看護師 として病院勤務	クリティカルケア認定看護 師として病院勤務	病院にて看護師として勤 務
教 科 目 目 標	急性期にある患者や家族の特徴を学び、様々な場面における援助や看護師の役割を知る。 循環器疾患の知識をふまえ循環器疾患患者の看護実践に必要な基礎的知識を修得する。			
教 科 目 内 容	急性期領域における看護 循環器疾患患者の看護			
授業予定期間	2024 年 4 月 ～ 9 月			第 49 期生 2 年次
授業計画	【急性期看護】（原）1 回～3 回目・6 回目（梅崎）4 回目・5 回目・7 回目 1 回目 急性期にある患者と家族の特徴と看護 急性期における看護の基本 患者と家族の特徴（心理的・社会的・身体的特徴） 急性期に生じやすい身体的問題と看護 危機的状態への精神的支援 治療の緊急性と優先度、治療選択・意思決定への支援 2・3 回目 救急看護とクリティカルケア看護の特徴と看護 バイタルサイン緊急性と重症度のアセスメント（意識レベル・神経学的所見） 急性症状の応急処置 心肺停止状態への処置 生命の危機回避と疾患の受容 4 回目 循環器障害のある患者の急性期看護 急性冠症候群の初期治療とケア（経皮的冠動脈形成術 冠動脈バイパス術 IABP） ショック時の初期対応 ショックの分類とショックへの処置 5 回目 呼吸機能障害のある患者の急性期看護 重症呼吸不全患者の看護（急性呼吸窮迫症候群 重症肺炎） 緊張性気胸患者の看護（胸腔穿刺 胸腔ドレナージ） 6 回目 外傷・熱傷・中毒の患者の急性期看護 外傷（高エネルギー外傷）熱傷の分類と応急処置 中毒 7 回目 敗血症・重症感染症の患者への看護 播種性血管内凝固（DIC）敗血症 全身性炎症反応症候群（SIRS） 【循環器看護】（竹重）8. 9. 11. 14 回（若木）10. 12. 13. 15 回 8・9 回目 循環器機能に障害がある患者の症状と看護 10 回目 虚血性心疾患患者の看護 虚血性心疾患の誘因 薬物療法 心臓カテーテル検査と看護 11 回目 不整脈患者の看護 徐脈性不整脈 頻脈性不整脈 不整脈（薬物療法） ペースメーカー・植え込み型除細動器を装着した患者への看護 12 回目 弁膜症・感染性心内膜炎 弁膜症患者・人工弁置換術後の患者の看護 感染性心内膜炎患者の看護 13 回目 動脈瘤患者の看護 閉塞性動脈硬化症患者の看護 14 回目 心不全症状がある患者の看護 心不全の重症度分類（Forrester 分類、スワングアンツカテーテル） 薬物治療 心不全症状の観察と対応 15 回目 心臓手術の特徴 手術前・術後の看護 心臓リハビリテーションと看護			
科 書	系統看護学講座 別巻 救急看護学 別巻 クリティカルケア看護（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3 循環器（医学書院） 病気が見える 10 循環器（メディックメディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験（梅崎：20 点 原：30 点 若木：25 点 竹重：25 点）			
備 考				

教 科 目	成人看護学方法論Ⅱ (呼吸器疾患患者の看護)		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義形式
講 師	みなみ じゅんのすけ 南 淳之介	はら ゆりか 原 友梨香	やまだ ゆみこ 山田 由美子	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護師として病棟勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	呼吸器系の構造と働きおよび呼吸器疾患の病態、診断や治療を理解し、呼吸器疾患患者の看護実践に必要な基礎的知識を修得する。			
教 科 目 内 容	呼吸器疾患患者の看護			
授業予定期間	2024 年 6 月 ～ 10 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	< 1～5 回目 山田 > 1 回目：呼吸器疾患をもつ患者の特徴と看護の役割 2 回目：呼吸器系の構造と機能（呼吸調節、換気運動、ガス交換） 3 回目：症状に対する看護① チアノーゼ、咳嗽、喀痰、血痰・咯血 4 回目：症状に対する看護② 呼吸困難、胸痛 5 回目：検査を受ける患者の看護 呼吸機能検査（換気機能検査、ガス交換機能検査） 気管支鏡、肺生検、胸腔穿刺 < 6～10 回 原 > 6 回目：疾患をもつ患者の看護① 肺炎・結核 7 回目：疾患をもつ患者の看護② 気管支喘息 気管支拡張症 8 回目：疾患をもつ患者の看護③ 肺がん 9 回目：疾患をもつ患者の看護④ 慢性閉塞性肺疾患 10 回目：疾患をもつ患者の看護⑤ 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 < 11～15 回目 南 > 11 回目：疾患をもつ患者の看護⑥ 肺塞栓・急性呼吸不全 12 回目：疾患をもつ患者の看護⑦ 過換気症候群・睡眠時無呼吸症候群 13 回目：治療・処置を受ける患者の看護① 酸素吸入、吸入療法、気道確保、 14 回目：治療・処置を受ける患者の看護② 侵襲的陽圧換気（人工呼吸器装着、気管切開患者の看護） 非侵襲的陽圧換気（NPPV） 15 回目：治療をうける患者の看護③ 肺切除術、胸腔ドレナージ			
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸器（医学書院）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	筆記試験（配点：山田 30 点、原 35 点、南：35 点）			
備 考				

教 科 目	成人看護学方法論Ⅲ (脳神経疾患看護・運動器疾患看護)		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義形式
講 師	すずき しゅういち 鈴木 秀一	わかばやし み ゆ 若 林 美由	ときえだ か よ 時枝 佳世	たかくら とおこ 高倉 東子
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	専任教員
担当者実務経験	病棟にて 看護師として勤務	病棟にて 看護師として勤務	脳卒中リハビリテーション 認定看護師として病棟勤務	病院にて看護師として勤 務
教 科 目 目 標	脳神経疾患・運動器疾患の病態をふまえ、診断や治療を理解し患者の看護実践に必要な基礎的知識を修得する。			
教 科 目 内 容	脳神経疾患患者の看護 運動器疾患患者の看護			
授業予定期間	2024 年 4 月 ～ 9 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	【運動器】 < 1～8 回担当：鈴木・若林 > 1 回目：症状とその病態生理(疼痛・形態異常・関節運動の異常・異常歩行・神経障害) 2 回目：骨折総論（骨折の分類・転位・症状・副損傷と合併症・骨の治癒過程） 3 回目：骨折各論（鎖骨骨折・肋骨骨折・上腕骨骨折・大腿骨頸部骨折・大腿骨骨幹部骨折・骨盤骨折・脊椎骨折） 4 回目：検査・処置を受ける患者への看護 （関節可動域検査・徒手筋力テスト・脊髄造影・神経ブロック・筋生検） 5 回目：治療を受ける患者への看護(ギプス固定・牽引法・人口関節置換術) 6 回目：病期や機能障害に応じた看護 （関節リウマチ・椎間板ヘルニア・四肢切断後・変形性関節症・骨折） 7 回目：援助の為の知識と技術 （日常生活の為の主な知識と技術・床上での離床訓練・生活の調整） 8 回目：疾患を持つ患者の看護 【脳神経】 <9～11 回 担当：高倉> 9 回目：脳神経の観察 10 回目：頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア 11 回目：脳の代表的疾患の障害と観察（脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血） <12～15 回 担当：時枝> 12 回目：脳卒中患者の看護 13 回目：運動麻痺のある患者の看護 14 回目：摂食嚥下障害のある患者の看護 15 回目：高次脳機能障害のある患者の看護			
科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経 （医学書院） 病気が見える（7） 脳・神経 （メディックメディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験（配点：鈴木 25 点、若林 25 点、高倉 25 点、時枝 25 点）			
備 考				

教 科 目	成人看護学方法論Ⅳ (消化器疾患看護、がん患者の看護・終末期看護)		時間 (単位)	30 時間 (1 単位)
			講義方法	講義形式
講 師	うちだ さちこ 内田 幸子	みょうじ こうすけ 明時 洸佑	さわらぎ ゆき こ 榎 木 由紀子	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	専任教員	
担当者実務経験	緩和ケア認定看護師として病棟勤務	病院で看護師として勤務	病院で看護師として勤務	
教 科 目 目 標	・消化器系の構造と働き及び病態、診断や治療の概略を理解し、消化器疾患患者の看護実践に必要な基礎的知識を修得する。 ・がん患者や終末期の看護について学ぶ。 ・死が身近に迫る患者の QOL の価値や日常生活を支える看護と、患者の家族への支援について学ぶ。			
教 科 目 内 容	1.消化器疾患患者の看護 2. がん患者と家族への看護 3. 終末期患者と家族への看護			
授業予定期間	2024 年 6 月 ～ 11 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	< 1～4 回目： 榎木 由紀子 > 1 回目：消化器の解剖生理 主な症状の看護 2 回目：食道、胃・十二指腸疾患をもつ患者の看護 3 回目：腸・腹膜疾患を持つ患者の看護 4 回目：肝疾患・膵臓疾患を持つ患者の看護 < 5～8 回目： 明時 洸佑 > 5 回目：食道、胃・十二指腸疾患をもつ患者の看護（食道切除術、胃切除術） 6 回目：腸・腹膜疾患を持つ患者の看護（大腸切除術、人工肛門造設術） 7 回目：肝疾患を持つ患者の看護（肝切除術、肝動脈塞栓術） 8 回目：胆嚢・膵臓疾患を持つ患者の看護（胆嚢摘出術、腹腔鏡下手術、胆道・胆嚢ドレーン挿入、膵臓切除術） < 9～15 回目： 内田 幸子 > 9～11 回目 がん患者と家族への看護 1) がん患者の抱える苦痛、生活上の困難 転移・浸潤による身体的・心理的苦痛 再発や経過の不確かさに伴う心理的苦痛 社会的偏見や制約に伴う苦痛 スピリチュアルな苦痛 2) がん患者の治療と看護 広範囲で侵襲性の高い手術療法 化学療法 放射線療法 集学的治療 3) がん患者の社会参加への支援 就労条件・環境の調整 社会参加を促す要素と阻害要因 12～15 回目 終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 1) 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護 がん患者 慢性呼吸不全患者 慢性疼痛のある患者 2) エンド・オブ・ライフ・ケア<end-of-life care> 症状アセスメントとマネジメント 全人的苦痛のアセスメントとマネジメント 苦痛緩和と意思決定支援 予期的悲嘆に対するアセスメントとケア アドバンスケアプランニング 家族ケア 3) 臨死期の看護、脳死状態への対応 看取りのケア、身体的ケア、精神的ケア、家族の悲嘆へのケア 代理意思決定支援、脳死判定、臓器移植			
教 科 書	系統看護学講座 別巻 がん看護学 別巻 緩和ケア (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 (医学書院)			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	筆記試験 (配点：榎木 25 点、明時 25 点、内田：50 点)			
備 考				

教 科 目	成人看護学方法論Ⅴ (泌尿器・女性生殖器)		時間（単位）	16 時間（1 単位）
			講義方法	講義形式
講 師	おおいし てつや 大石 哲也	もり ひろし 森 博士	おぜき たかえ 小関 孝枝	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて医師として勤務	病院にて助産師として勤務	
教 科 目 目 標	腎泌尿器疾患・女性生殖器疾患の病態、診断・治療を理解した上で看護実践に必要な基礎的知識を修得する。			
教 科 目 内 容	泌尿器疾患患者の看護 女性生殖器疾患と看護			
授業予定期間	2024 年 10 月～12 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	【泌尿器疾患】			
	＜ 1 回～3 回：大石 ＞			
	1 回目：症状に対する看護、検査を受ける患者の看護 症状／排尿障害（頻尿・残尿・尿閉）、尿失禁、尿の性状異常（血尿・膿尿）、性・生殖機能障害 検査／静脈性尿路造影・逆行性腎盂造影・膀胱造影・尿道造影・ウロダイナミックスタディ・膀胱鏡検査・前立腺生検			
	2 回目：疾患を持つ患者の看護／膀胱炎・腎盂腎炎、腎臓がん、腎・尿路結石			
	3 回目：疾患を持つ患者の看護／ 膀胱がん、前立腺肥大症、前立腺がん			
	【女性生殖器疾患】			
	＜ 4 回～7 回：森 ＞			
	4 回目：疾患の理解① 子宮（子宮がん、子宮筋腫、子宮内膜症）			
	5 回目：疾患の理解② 卵巣（卵巣良性腫瘍・悪性腫瘍、卵巣嚢腫） 卵管（異所性妊娠）			
	6 回目：疾患の理解③ 乳房（乳がん、乳腺症）、膣（膣炎） 絨毛性疾患（胞状奇胎）			
7 回目：疾患の理解④ 機能的疾患（不妊症・不育症、更年期障害） 性感染症				
＜ 8 回：小関 ＞				
8 回目：女性生殖器疾患患者および看護の特徴（内診・プライバシーの保護） 疾患をもつ患者の看護（卵巣がん患者の看護・乳がん患者の看護）				
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8	腎・泌尿器	(医学書院)	
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9	女性生殖器	(医学書院)	
受 験 資 格	6 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験（配点：大石 40 点 小関 10 点 森 50 点）			
備 考				

教 科 目	成人看護学方法論Ⅵ (腎・内分泌・糖尿病疾患看護)		時間 (単位)	30 時間 (1 単位)
			講義方法	講義形式
講 師	かわなみ しゅうじ 川波 秀次	わたなべ ゆきえ 渡辺 幸恵	ととき あやこ 十時 綾子	しきた みわ 敷田 美和
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	専任教員
担当者実務経験	病院にて臨床工学技士として勤務	透析指導看護師として病院勤務	糖尿病看護認定看護師として病院勤務	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	腎・内分泌・代謝疾患患者の原因や誘因を知り、治療の特徴を理解した上で看護実践に必要な基礎的知識を修得する			
教 科 目 内 容	腎・内分泌・代謝疾患患者の看護			
授業予定期間	2024 年 9 月～12 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	【腎疾患】 1 回目 (渡辺) : 症状に対する看護、検査を受ける患者の看護 2 回目 (渡辺) : 薬物療法を受ける患者の看護、食事療法・運動療法を受ける患者の看護 3 回目 (川波) : 透析治療 4 回目 (渡辺) : 疾患を持つ患者の看護／慢性腎臓病 (病期に応じた援助)、急性腎不全 5 回目 (渡辺) : 透析治療を受ける患者の看護、腎移植 【糖尿病】 6 回目 (十時) : 疾患と治療／糖尿病 7 回目 (十時) : 疾患を持つ患者の看護／糖尿病 (病期に応じた援助) 8 回目 (十時) : 疾患を持つ患者の看護／糖尿病 (病期に応じた援助) 9 回目 (十時) : 疾患を持つ患者の看護／糖尿病 (病期に応じた援助) 10 回目 (十時) : 疾患を持つ患者の看護／糖尿病 (事例による看護過程の展開) 【内分泌】 11 回目 (敷田) : 疾患を持つ患者の看護／内分泌疾患の検査 12 回目 (敷田) : 疾患を持つ患者の看護／下垂体疾患 13 回目 (敷田) : 疾患を持つ患者の看護／甲状腺疾患 14 回目 (敷田) : 疾患を持つ患者の看護／副甲状腺・副腎疾患 15 回目 (敷田) : 疾患を持つ患者の看護／高尿酸血症・脂質異常症・肥満症			
科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 (医学書院)			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験 (レポートを含む) (配分: 渡辺・川浪: 40 点 十時: 30 点 敷田: 30 点)			
備 考				

教 科 目	成人看護学方法論Ⅶ (血液造血疾患看護・アレルギー・感覚器疾患看護)			時間 (単位)	30 時間 (1 単位)
				講義方法	講義形式
講 師	さかもと あい 坂本 愛	しゅとう ひでき 首藤 英樹	さわらぎ ゆきこ 榎木 由紀子	うめざき てつや 梅崎 哲也	のぐち じゅんや 野口 順也
所 属	非常勤講師	非常勤講師	専任教員	非常勤講師	非常勤講師
担当者実務経験	病院にて看護師 として勤務	病院にて看護師 として勤務	病院にて看護師と して勤務	皮膚・排泄ケア認定看 護師として病院勤務	病院にて視能訓練 士として勤務
教 科 目 目 標	血液・造血器・免疫系・皮膚科・アレルギー・自己免疫、眼科疾患を患う患者の病態を 理解し、治療・検査に伴う対象の身体的・心理的变化に対応した看護の方法を習得する。				
教 科 目 内 容	血液・造血器疾患の看護・アレルギー・皮膚科疾患看護 眼科疾患看護				
授業予定期間	2024 年 7 月～ 11 月			第 49 期生 2 年次	
授業計画	【血液・造血器疾患看護】 1～2 回坂本 3 回～6 回首藤 1 回目 : 赤血球系の異常の原因と症状 (貧血の成因、診断) 2 回目 : 血液疾患に必要な検査処置 (骨髄穿刺・輸血療法) 3 回目 : 貧血患者の看護 4・5 回目 : 白血病患者の化学療法時の看護 心身状態のアセスメント、抗がん剤投与時観察と援助 有害事象 (嘔気・嘔吐、骨髄抑制、口内炎など) に対するマネジメント 6 回目 : 造血幹細胞移植の看護 (造血幹細胞移植の種類、心身のアセスメント、 ドナーのアセスメントと援助、無菌室での援助) 【アレルギー自己免疫疾患患者の看護】 7～9 回 榎木 7 回目 : アレルギー疾患をもつ人 (蕁麻疹・アトピー性皮膚炎、アナフィラキシーショック) への援助 8 回目 : 自己免疫疾患を持つ人への援助 (S L E) 9 回目 : 自己免疫疾患をもつ人への援助 (ベーチェット病) 【皮膚科疾患の看護】 10～12 回 梅崎 10 回目 : 皮膚の構造と機能 症状とその病態生理① (発疹) 11 回目 : 症状とその病態生理② (掻痒・皮膚の老化 検査と治療・処置と看護) 疾患と看護① (表在性皮膚疾患) 12 回目 : 疾患と看護② (真皮・皮下組織および皮膚付属器・物理・化学的皮膚傷害・腫瘍・感染症) 【眼科疾患】 13・14 回目 : 榎木 15 回目 : 野口 13 回目 : 眼科疾患 (結膜炎・白内障・緑内障・糖尿病性網膜症) 14 回目 : 眼科看護 1) 視覚器に異常をきたした患者の理解 2) 診察室における看護 3) 検査と看護 4) 治療と看護 5) 手術をうける患者の看護 6) 伝染性疾患と予防 15 回目 : 眼科関連検査				
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4	血液・造血器 (医学書院)			
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11	アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院)			
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 12	皮膚 (医学書院)			
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 13	眼 (医学書院)			
受 験 資 格	10 回以上の出席				
評 価 方 法	小テスト・レポート・ 筆記試験 (配点 : 血液 40 点 アレルギー 20 点 皮膚 20 点 眼科 20 点)				
備 考					

教 科 目	成人看護学方法論Ⅷ (周手術期看護)		時間 (単位)	16 時間 (1 単位)
			講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	はたけなか てつお 畑 中 哲生	うえた ゆうこ 植田 優子	たかくら とおこ 高倉 東子	
所属	非常勤講師	非常勤講師	専任教員	
担当者実務経験	麻酔科医師として病院勤務	手術室看護師として病院勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	成人期の対象の、周手術期の身体的・心理的・社会的変化を理解し、周手術期に必要な看護の方法を理解する。			
教 科 目 内 容	1. 周手術期看護とは 2.手術前看護 3.麻酔・輸血 4.術中看護 5. 術後看護			
授業予定期間	2024 年 9 月～10 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	1 回目　　＜周手術期看護について 術前の看護①＞　高倉 手術を受ける患者の経過　インフォームドコンセント　手術の意思決定への援助 術前オリエンテーション ※術前看護課題（個人自己学習・グループ学習） 2 回目　＜術前の看護②＞　高倉 術前検査、準備、術前指導術前訓練（喫煙指導、呼吸訓練、床上訓練） 術前日から当日の看護、術前処置 3 回目　＜手術中の麻酔　輸血＞　畑中 麻酔について（麻酔の種類、悪性高熱、麻酔の管理） 輸血について 4・5 回目　＜術中の看護＞　植田 手術室看護の要点　手術室看護の役割　術中体位と体温管理 麻酔の種類と看護 6・7 回目　＜術後の看護＞　高倉 手術侵襲への生体反応　術後の観察　術後のドレーン管理　術後疼痛 術後合併症（呼吸器、循環器、イレウス、術後感染、せん妄、縫合不全） 術後栄養管理 ※術後看護課題（個人自己学習・グループ学習） 8 回目　＜学習発表会＞　高倉 術前オリエンテーション　術後看護計画			
教 科 書	系統看護学講座　別巻	臨床外科看護総論	(医学書院)	
	系統看護学講座　別巻	臨床外科看護各論	(医学書院)	
受 験 資 格	6 回以上の出席			
評 価 方 法	レポート提出・筆記試験（高倉：80 点（麻酔・輸血について含む）　植田：20 点）			
備 考				

教 科 目	老年看護学概論 I	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク形式
講 師	うつみ しおり 内海 志織	所属	非常勤講師
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 老年期にある対象の身体的、精神・心理的、社会的変化を知り、老年期のライフステージを理解する。 2. 高齢者を取り巻く社会の状況を理解し、看護師の役割について考える。		
教 科 目 内 容	1. 老年期および老年期にある対象の理解 2. 高齢者を取りまく社会 3. 高齢者の権利擁護		
授業予定期間	2024 年 7 月～12 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目：ガイダンス 老年看護の概念 ライフサイクルと老年期 2～3 回目：老年期を生きる人の理解①② ライフヒストリー（ライフストーリー）からの学び（グループワーク） 4～6 回目： 老年期を生きる人の理解③④⑤ 老化とは、身体・生理的、心理・精神・スピリチュアル的側面 7 回目：老年期を生きる人の理解⑥ 老年期の発達段階・発達課題・高齢者のＱＯＬと生きがい 8 回目：老年期を生きる人の理解⑦ 高齢者体験からの学び（グループワーク） 9 回目：老年期を生きる人の理解⑧ 長寿を生きる生活と社会的（環境的）側面 10 回目：老年看護領域における倫理的な課題と対応① 身体拘束（グループワーク） 11 回目：老年看護領域における倫理的な課題と対応② 高齢者差別・高齢者の権利擁護・高齢者虐待 12 回目：高齢者を取り巻く社会① 超高齢社会の現状 13 回目：高齢者を取り巻く社会② 高齢者を取り巻く家族の状況 14 回目：高齢者を取り巻く社会③（グループワーク） 介護をする家族 15 回目：高齢者を取り巻く社会④ 老年看護の発展と学際的アプローチ		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院） 国民衛生の動向 厚生労働統計協会（必要時に提示する）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験と各種レポート また、授業準備・出席状況・授業への積極的な参加状況を含み総合評価とする		
備 考	教科書のほか視聴覚教材を使用する 提出物の期限は厳守する		

教 科 目	老年看護学概論Ⅱ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義・課題作成形式
講 師	やぎ さとこ 八木 聡子	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 高齢社会における老人医療と福祉の意義について理解し、他職種との協働のなかでの保健活動と看護師の役割を学ぶ。 2. 高齢者の健康段階に応じた看護の視点を学ぶ。 3. 老年看護実践にとって重要な介護予防、自立支援へのアプローチの理論的基盤を学び、自己の老年観を構築できる。		
教 科 目 内 容	1. 高齢社会における保健医療福祉システム 2. 高齢者看護と理論の応用 3. 健康段階に応じた看護		
授業予定期間	2025 年 1 月～3 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目：超高齢社会を支える高齢者ケアシステム①（グループワーク） 2 回目：超高齢社会を支える高齢者ケアシステム② 高齢社会における保健医療福祉の動向 3 回目：老年看護の看護過程 老年看護における理論・概念の活用 4 回目：高齢者のヘルスアセスメント 5 回目：健康段階に応じた看護 エンドオブライフケア 6 回目：人生の最終段階における医療 老年看護の役割 高齢者のための保健・福祉活動の現状と今後の課題 7・8 回目：老年観発表会		
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学（医学書院） 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験とレポート，老年観 また、授業準備・出席状況・授業への積極的な参加状況を含み総合評価とする		
備 考	教科書のほか視聴覚教材を使用する 提出物の期限は厳守すること		

教 科 目	老年看護学方法論Ⅰ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	さわらぎ ゆきこ 榎木 由紀子	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	加齢に伴う諸機能の変化や個別性を考慮し、高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践について学ぶ。		
教 科 目 内 容	1. 高齢者の生活機能を整える看護 2. 加齢に伴う身体的症状と看護		
授業予定期間	2024 年 4 月～6 月 第 49 期生 2 年次		
授業計画	1 回目：加齢に伴う変化 高齢者の健康問題の特徴 高齢者とのコミュニケーション 2 回目：高齢者の生活機能を整える看護① ー食生活 加齢に伴う身体的症候と看護① ー低栄養 3 回目：高齢者の生活機能を整える看護② ー排泄 加齢に伴う身体的症候と看護② ー便秘・下痢 4 回目：高齢者の生活機能を整える看護③ ー清潔・衣生活 加齢に伴う身体的症候と看護③ ー掻痒症 5 回目：高齢者の生活機能を整える看護④ ー生活リズム 加齢に伴う身体的症候と看護④ ー睡眠障害 6 回目：高齢者の生活機能を整える看護⑤ ー基本行動（歩行・移動） 加齢に伴う身体的症候と看護⑤ ー廃用症候群 7 回目：事故の予防ー転倒・転落 8 回目：高齢者と災害・まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験、レポート、課題学習、講義の出席状況、授業準備、授業態度の総合評価		
備 考			

教 科 目	老年看護学方法論Ⅱ		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義形式
講 師	いとう おさむ 伊藤 修	さかもと じろう 阪本 治郎	たけばやし 竹 林 りか	さわらぎ ゆきこ 榎 木 由紀子
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	専任教員
担当者実務経験	病院にて認知症看護認定看護師として勤務	病院にて認知症看護認定看護師として勤務	病院にて認知症看護認定看護師として勤務	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 障害・疾病をもつ高齢者の特徴を理解し、高齢者と家族への看護実践について学ぶ。 2. 高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を学ぶ。 3. 高齢者の生命と人格を尊重する態度を学ぶ。			
教 科 目 内 容	1. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 2. 治療を受ける高齢者への看護 3. 継続看護			
授業予定期間	2024 年 8 月～12 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	< 1 回目：榎木 > 1 回目：治療を受ける高齢者への看護① ー薬物療法 < 2 回目～5 回目：竹林 > 2 回目：治療を受ける高齢者への看護② ーリハビリテーション ー受療形態に応じた看護（入院時・外来診察時・検査時・手術療法時） 3 回目：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護④ ー摂食・嚥下障害 事故の予防ー誤嚥と窒息 4 回目：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑤ ー骨粗鬆症、骨折 5 回目：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑥ ー尿失禁・尿路感染症、感染症 < 6 回目～9 回目：阪本 > 6 回目：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護① ー脱水症 7 回目：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護② ー血圧調節障害、熱中症 8 回目：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護③ ー視覚障害、聴覚障害 9 回目：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑦ ーうつ病・せん妄、パーキンソン症候群 < 10 回目～13 回目：伊藤 > 10・11 回目：高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑦ ー認知症 12 回目：継続看護① ー受療形態に応じた看護（地域連携における退院時） ー施設サービスにおける看護 13 回目：継続看護② ー居宅サービスにおける看護 < 14 回目・15 回目：榎木 > 14・15 回目：高齢者の看護過程の展開について			
科 書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 （医学書院）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	試験、レポート提出、講義の出席状況の総合評価 （榎木：25 点 竹林：25 点 坂本 25 点 伊藤 25 点）			
備 考				

教 科 目	小児看護学概論	時間 (単位)	30 時間 (1 単位)
		講義方法	講義形式
講 師	ふくだ しょうこ 福田 祥子	みやい ゆき 宮井 由記	
所 属	非常勤講師	専任教員	
担当者実務経験	病院にて医師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	1. 小児の特徴と小児看護の概念を理解する 2. 小児保健統計を踏まえ、小児を保護する法律や保健対策を理解する 3. 小児と家族を取り巻く社会の変化を理解する 4. 小児各期の正常な成長・発達の特徴や日常生活における看護を理解する		
教 科 目 内 容	1. 小児看護の特徴と理念 2. 子どもの成長と発達と特性 3. 小児各期の成長と発達と看護 4. 小児を取り巻く家族の特徴とアセスメント 5. 子どもを取り巻く社会		
授業予定期間	2024 年 7 月 ～ 11 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目 (宮井) 小児看護の対象と小児看護の役割 2 回目 (宮井) 小児と家族の諸統計 3 回目 (宮井) 小児看護の変遷と小児看護における倫理と課題 4 回目 (福田) 子どもを取り巻く社会 (予防接種) 5 回目 (福田) 子どもを取り巻く社会 (児童福祉・母子保健法・医療費の支援・学校保健法) 6 回目 (宮井) 子どもの成長・発達 1) 小児看護学における発達論 2) 小児期の発達区分と領域 7 回目 (福田) 子どもの成長と発達 1) 成長・発達の進み方 2) 成長・発達に影響する因子 3) 成長の評価と発達の評価 8～10 回目 (宮井) 子どもの成長と発達 (新生児・幼児期・学童期・思春期) 1) 形態的発達 2) 機能的発達 3) 心理的社会的発達 11～12 回目 (宮井) 成長と発達の特徴と看護 13 回目 (宮井) 小児の栄養 1) 意義と食育 2) 乳児期・幼児期・学童期・思春期の栄養 14 回目 (宮井) 家族の特徴とアセスメント 1) 子どもにとっての家族 2) 家族アセスメント 15 回目 (宮井) 小児看護のまとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論小児臨床看護総論 (医学書院)		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 (配点：福田 20 点、宮井：80 点)・課題レポートで総合評価		
備 考			

教 科 目	小児看護学方法論Ⅰ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	いまむら のりお 今村 徳夫	うしろやま かずひこ 後山 和彦	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	
担当者実務経験	病院にて医師として勤務	病院にて医師として勤務	
教 科 目 目 標	1. 小児の主要疾患の病態生理、症状、診断、治療の概略を理解する 2. 疾患が小児に及ぼす影響について理解する		
教 科 目 内 容	代表的な疾患に対する病態生理・症状・診断・治療法について		
授 業 予 定 期 間	2024 年 4 月～ 7 月		第 49 期生 2 年次
授 業 計 画	1 回目： 染色体異常・体内環境により発症する先天異常（今村） 【常染色体異常・性染色体異常・血友病】 2 回目： 新生児・低出生児の疾患（今村） 【新生児仮死・呼吸窮迫症候群・高ビリルビン血症・ 新生児壊死性腸炎・未熟児網膜症】 3 回目： 代謝性・内分泌疾患（今村） 【糖尿病・成長ホルモン分泌不全性低身長症】 4 回目： 神経疾患（今村） 【水頭症・二分脊椎・脳性麻痺・筋ジストロフィー】 5 回目： 耳鼻咽頭疾患・感覚器疾患（今村） 【アデノイド増殖症・中耳炎・斜視】 6 回目： 運動器疾患・リウマチ性疾患（今村） 【骨折・先天性股関節脱臼・若年性関節リウマチ】 7 回目： 悪性新生物（今村） 【白血病・神経芽腫】 8・9 回目： 感染症（後山） 【麻疹・風疹・突発性発疹・水痘・帯状疱疹・風疹・流行性耳下腺炎・ 百日咳・溶血性レンサ球菌感染症・アデノウイルス・RS ウイルス】 10 回目： 呼吸器疾患（後山） 【気管支喘息・クループ症候群・細気管支炎・肺炎】 11 回目： 循環器疾患 ①（後山） 【胎児循環と新生児循環・チアノーゼと心不全】 12 回目： 循環器疾患 ②（後山） 【先天性心疾患（VSD・TOF）・川崎病】 13 回目： 消化器疾患 ①（後山） 【口唇・口蓋裂・肥厚性幽門狭窄症・ヒルシュスプルング病・ 腸重積症】 14 回目： 消化器疾患 ②（後山） 【胆道閉鎖症・乳幼児下痢症（ロタウイルス・ノロウイルス）】 15 回目： 腎・泌尿器疾患（後山） 【先天性腎尿路奇形・ネフローゼ症候群 溶血性レンサ球菌感染症後急性糸球体腎炎】		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児臨床看護各論（医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（配点：今村 45 点、後山 55 点 ）		
備 考			

教 科 目	小児看護学方法論Ⅱ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	たけしげ まさみ 竹重 真佐美	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響と援助について理解する 2. さまざまな健康課題をもつ子どもと家族への看護を理解する 3. 子どもに出現しやすい症状や経過に応じた看護の方法を理解する		
教 科 目 内 容	健康障害をもつ小児と家族の看護		
授 業 予 定 期 間	2024 年 7 月～12 月 第 49 期生 2 年次		
授 業 計 画	1 回目： 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 痛みや活動制限が子どもに与える影響と援助 2 回目： 外来受診や入院を必要とする子どもと家族の看護 3 回目： 救急処置が必要な子どもと家族の看護： 熱傷・溺水・中毒・誤飲・心肺蘇生法・乳幼児の意識レベル 4 回目： 急性症状を示す子どもと家族の看護：発熱・脱水（川崎病） 5 回目： 急性症状を示す子どもと家族の看護：下痢・嘔吐（急性腸炎） 6 回目： 急性症状を示す子どもと家族の看護：呼吸困難（肺炎・気管支喘息） 7 回目： 急性症状を示す子どもと家族の看護：けいれん（熱性けいれん） 8 回目： 感染対策上隔離が必要な子どもと家族の看護 （麻疹・風疹・水痘・ムンプス・百日咳） 9 回目： 出生直後から集中治療を必要とする子どもと家族の看護： （ハイリスク新生児・ダウン症候群） 10 回目： 手術を受ける子どもと家族の看護 ① （心室中隔欠損症・ファロー四徴症） 11 回目： 手術を受ける子どもと家族の看護 ② （口唇・口蓋裂・腸重責症・幽門狭窄症） 12 回目： 慢性期にある小児と家族の看護 （ネフローゼ症候群 糖尿病） 13 回目： 終末期にある小児と家族の看護 （白血病） 14 回目： 心身障害のある子どもと家族の看護 （重症心身障害児） 15 回目： 災害を受けた子どもと家族の看護 子どもの虐待と看護		
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児臨床看護各論（医学書院）		
受験資格	10 回以上の出席		
評価方法	終講試験・小テスト・課題レポートの総合評価 ※態度評価も含む		
備考			

教 科 目	小児看護学方法論Ⅲ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義・演習
講 師	みやい ゆき 宮井 由記	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 小児に必要な基本的看護技術や生活援助法について理解する 2. 小児の特徴をふまえ、看護過程の展開の方法を理解する		
教 科 目 内 容	小児看護技術 看護過程		
授 業 予 定 期 間	2024 年 4 月～5 月 第 48 期生 3 年次		
授 業 計 画	1 回目：小児の看護技術（講義・グループワーク） 2 回目：小児の看護技術（講義）・フィジカルアセスメント（DVD） 3 回目：小児の看護技術（講義） 身体計測・バイタルサイン測定・更衣・おむつ交換 4 回目：小児の看護技術（講義） 採血・採尿・与薬・吸引・経管栄養 骨髄穿刺・腰椎穿刺の介助 処置や診察時の援助 5 回目：事例を用いた小児看護過程の展開 1（講義・演習） 6 回目：看護過程の展開 2 （演習） 7 回目：看護過程の展開 3 （演習） 8 回目：看護過程の展開 4 （演習）		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） パーフェクト臨床実習ガイド小児看護 （照林社）		
受 験 資 格	10 時間以上の出席		
評 価 方 法	出席状況・態度・課題レポート・小テスト・終講試験で総合評価		
備 考			

教 科 目	母性看護学概論	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	かんばら まゆみ 神原 真弓	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 母性看護の概念を理解する。 2. 母性の対象を取り巻く保健・医療・福祉の現状を理解し関心がもてる 3. 母性の発達段階にそれぞれの特徴と健康や健康問題を理解したうえで看護の方法が理解できる。 4. リプロダクティブヘルスケアについて理解し、女性の人権について考えることができる。 5. 人の誕生と母性との関係を自分の言葉で表現できる		
教 科 目 内 容	1. 母性看護の基盤となる概念・特徴 2. 母性の対象を取り巻く保健・医療・福祉 3. 母性の発達段階に応じた健康と看護 4. リプロダクティブヘルスケア		
授業予定期間	2024 年 7 月～11 月 第 50 期生 1 年次		
授業計画	1 回目 母性とは 親になることとは 親になる意味と親になる過程における問題 2 回目 ヒューマン・セクシュアリティ セクシュアリティの概念 人間の性の多様性（LGBT 含） セクシュアリティの発達の時期と各時期に応じた課題 3 回目 リプロダクティブヘルス/ライツ リプロダクティブヘルツ/ライツの考え方 女性の人権について ヘルスプロモーション 母性看護における課題と倫理的問題 4 回目 女性の身体的特徴（生殖器の形態と機能） 生殖器の形態及び機能 受精・着床のメカニズム 性機能の変化（衰退）と全身に及ぼす影響 5～6 回目 女性の社会的特徴 女性のライフサイクルの変化 女性の生き方の共通性と個別性 性周期 7～10 回目 女性のライフサイクル各期の健康と看護 性教育とは 女性の健康と看護の必要性 各期の健康と看護の方法 11～13 回目 リプロダクティブヘルスケア 家族計画 性感染症と予防 人工妊娠中絶と看護 禁煙女性の健康と看護 性暴力を受けた女性に対する看護 H I Vに感染した女性の看護 児童虐待と看護 国際化 14 回目 母子保健統計の動向 15 回目 母性看護に関する組織や法律と現状 母性を取り巻く環境の特徴と母性の役割に及ぼす影響 周産期医療システムと母子保健施策		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器（医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	小テスト・終講試験・レポート提出・出席状況		
備 考			

教 科 目	母性看護学方法論Ⅰ（妊娠期・分娩期）		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義形式
講 師	やまだ まき 山田 麻紀	ごう りさ 郷 理紗	かんばら まゆみ 神原 真弓	もり ひろし 森 博士
所 属	非常勤講師	非常勤講師	専任教員	非常勤講師
担当者実務経験	病院にて助産師として勤務	病院にて助産師として勤務	病院にて看護師として勤務	病院にて医師として勤務
教 科 目 目 標	1. 妊娠期・分娩期にある対象の経過や生理的变化を理解する。 2. 妊娠期・分娩期の健康管理の意義と必要性また家族に対する看護が理解できる 3. ハイリスク状態にある妊婦・産婦の病態とその看護を理解できる			
教 科 目 内 容	1. 妊娠期・分娩期の経過とアセスメントとその看護 2. ハイリスクにある妊婦・産婦の理解			
授業予定期間	2024 年 4 月～7 月		第 49 期生 2 年次	
授業計画	【妊娠期】 1 回目 神原 遺伝相談・出生前診断 不妊・不育症治療と看護 2 回目～6 回目 山田 妊娠期におけるアセスメントと看護 妊娠の生理（受胎・発生のメカニズム） 妊娠とその診断 胎児の発育とその生理、健康状態 母体の生理的变化 妊婦と胎児の経過の診断 妊婦の心理・社会的特性、家族の看護 妊婦の健康診断・教育の実際 7 回目～9 回目 郷 ハイリスク妊娠の理解と看護 ①妊娠期の感染症 ②流早産 ③妊娠悪阻 ④妊娠貧血 ⑤妊娠糖尿病 ⑥妊娠高血圧症候群 ⑦多胎妊娠 ⑧血液型不適合妊娠 【分娩期】 10 回目～13 回目 神原 分娩期におけるアセスメントと看護 分娩の要素 分娩の経過 産婦と胎児の健康状態 産婦の心理的・社会的特性、家族の看護 分娩期の看護の実際 ①分娩第 1 期 ②分娩第 2・3・4 期 14 回目、15 回目 森 分娩時の異常 ①陣痛異常（微弱陣痛・過強陣痛）、常位胎盤早期剥離 前置胎盤 ②胎児機能不全、帝王切開術の適応と術前・術中 分娩時異常出血			
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論（医学書院） 病気が見える vol. 10 産科（メディックメディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験・事前学習（配点 山田 30 点 郷 25 点 神原 30 点 森 15 点）			
備 考				

教 科 目	母性看護学方法論Ⅱ（産褥期・新生児期）		時間（単位）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義形式
講 師	むらかみ あつこ 村上 厚子	たなべ みさき 田邊 美咲	いけぐち こういち 池口 弘一	ふじもと 藤本 ゆり
所 属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師	専任教員
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて助産師として勤務	病院にて医師として勤務	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 産褥期・新生児期にある対象の経過や生理的变化を理解する。 2. 産褥期・新生児期の健康管理の意義と必要性また家族に対する看護が理解する 3. ハイリスク状態にある褥婦・新生児の病態とその看護を理解する			
教 科 目 内 容	1. 産褥期・新生児期の経過とアセスメントとその看護 2. ハイリスクにある褥婦・新生児の理解			
授業予定期間	2024 年 9 月～12 月			第 49 期生 2 年次
授業計画	【産褥期】 1 回目～5 回目 藤本 1. 産褥期にある対象のアセスメントと看護 1) 産褥期の身体的変化 2) 退行性変化 3) 進行性変化 4) 褥婦の日常生活とセルフケア 5) 褥婦の心理的・社会的特性、家族関係再構築への看護 6 回目～8 回目 村上 2. 産褥の異常と看護 ①子宮復古不全 ②産褥熱 ③乳腺炎 ④産後精神障害 ⑤死産、障害がある新生児を出産した親 【新生児期】 9 回目～12 回目 田邊 3. 新生児期にある児の特徴と看護 1) 新生児の生理 2) 新生児の診断と健康状態 3) 出生直後の看護 4) 出生後～退院時までの看護 5) 生後 1 ヶ月健診に向けた退院時の看護 13 回目～15 回目 池口 4. 新生児の異常と看護 ①早産児、低出生体重児 ②呼吸窮迫症候群 ③低血糖症 ④高ビリルビン血症 ⑤新生児ビタミン K 欠乏症 ⑥胎便吸引症候群 ⑦先天異常の新生児 ⑧産瘤・頭血腫			
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 （医学書院） 病気が見える vol. 10 産科 （メディック メディア）			
受 験 資 格	10 回以上の出席			
評 価 方 法	終講試験・事前学習 （配点 田邊 25 点 村上 20 点 藤本 35 点 池口 20 点 ）			
備 考				

教 科 目	母性看護学方法論Ⅲ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義・学内実習 グループワーク形式
講 師	かんばら まゆみ 神原 真弓	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
教 科 目 目 標	1. 周産期の看護過程の展開方法が理解できる 2. 周産期における看護技術について理解できる		
教 科 目 内 容	1. 周産期の看護過程の展開 2. 周産期における看護技術		
授業予定期間	2024 年 4 月～5 月		第 48 期生 3 年次
授業計画	1 回目 母性看護における看護過程 ウェルネス看護診断の考え方 2 回目 看護過程の実際①（プロフィール作成） 3 回目 看護過程の実際②（人型・アセスメント） 4 回目 看護過程の実際③（アセスメント発表会） 5 回目 看護過程の実際④（看護診断リスト） 6 回目 看護過程の実際⑤（アセスメント要約） 7～8 回目 （学内実習）（沐浴、妊婦健康診査の援助について） DVD 学習（沐浴、妊婦健康診査）		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第 3 版 （医学書院） （医歯薬出版株式会社）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	試験・課題・講義参加状況・レポート		
備 考			

教 科 目	精神看護学概論	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	矢野 さゆり	工藤 聡美	
所 属	専任教員	非常勤講師	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	精神看護専門看護師として病院勤務	
教 科 目 目 標	精神の構造と機能を理解し精神看護学の基本概念を理解できる。 1.すべてのライフサイクルにおける心の発達、心の健康と不健康を知るための基礎知識や方法を学び、心の健康の維持増進を図るための援助について理解する。 2.強いストレス状況として入院患者や家族、危機状況にある人への援助方法について理解する。 3.こころの問題に対する歴史的背景・精神保健医療の歴史を学び、現代における精神障害者の人権擁護について理解する。		
教 科 目 内 容	1. 精神看護学の対象・目的・意義 2. 精神の構造と機能 3. 心の発達と不適応 4. 心の健康と不健康 5. 強いストレス状況あるいは危機状況にある人への援助		
授業予定期間	2024 年 11 月～2025 年 2 月		第 50 期生 1 年次
授業計画	< 1 回目～12 回目 矢野 > 1 回目：精神看護学の概要 精神障害者の理解 2 回目：精神保健医療福祉の変遷 3 回目：精神医療の現状 4 回目：精神の機能（こころの働き）とその障害 5 回目：精神力動論と発達段階 6 回目：防衛機制 7 回目：ストレスによる影響と対処（汎適応症候群 ストレス理論 心的外傷） 8 回目：危機理論 9 回目：家族と精神の健康 10 回目：乳児期における不適応 11 回目：幼児期における不適応と家庭における精神保健 12 回目：学童期における不適応と学校における精神保健 < 13 回目～15 回目 工藤 > 13 回目：思春期・青年期における不適応 14 回目：成人期における不適応と職場における精神保健 15 回目：老年期における不適応		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎 （医学書院）		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（配点：矢野：80 点 工藤：20 点）		
備 考			

教 科 目	精神看護学方法論Ⅰ	時間（単位）	16 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	やまぐち たかのり 山口 駿範	いがた えみ 井形 恵実	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	
担当者実務経験	大学・病院等にてカウンセラーとして勤務	病院・診療所等にて作学療法士として勤務	
教 科 目 目 標	精神の機能と障害について、その診断と心理・社会的療法について理解できる		
教 科 目 内 容	1. 精神の機能とその障害 2. 診断と検査 3. 治療		
授業予定期間	2024 年 4 月～6 月	第 49 期生 2 年次	
授業計画	< 1 回目～6 回目・8 回目 山口 7回目 井形 > 1 回目：精神機能とその障害（思考の障害） 2 回目：精神機能とその障害（感情の障害） 3 回目：精神機能とその障害（知覚の障害） 4 回目：精神機能とその障害（意欲・意識・記憶の障害） 5 回目：精神療法（個人療法 支持療法 認知行動療法 SST） 6 回目：精神療法（集団精神療法 グループダイナミクス 家族療法） 7 回目：精神科作業療法 8 回目：まとめ		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎（医学書院）		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験（100 点）		
備 考			

教 科 目	精神看護学方法論Ⅱ	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講 師	こばやし ひろし 小林 宏至	くどう さとみ 工藤 聡美	
所 属	非常勤講師	非常勤講師	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて精神看護専門看護師として勤務	
教 科 目 目 標	主な精神疾患・障害の特徴と看護について理解できる。 1. 精神障害者とその家族への看護援助を行うのに必要な、心の健康障害とその病態、検査、治療について学ぶ。 2. こころの健康障害を持つ人の特徴を理解し、必要な看護援助の基本を学ぶ。		
教 科 目 内 容	1. 主な病態・精神症状に対する治療と看護 2. 一般診療科における精神保健 3. 対人援助職におけるこころの健康		
授業予定期間	2024 年 9 月～11 月	第 49 期生 2 年次	
授業計画	<1 回目～5 回目 小林> 1 回目・2 回目：統合失調症（電気痙攣療法含む） 3 回目・4 回目：気分障害 5 回目：認知症 <6 回目～15 回目 工藤> 6 回目：不安障害 強迫性障害 7 回目：A S D P T S D 適応障害 解離性障害 8 回目：依存症 9 回目：パーソナリティ障害 10 回目：摂食障害 素行障害 11 回目：知的障害 発達障害 12 回目：睡眠障害 症状精神病 心身症 13 回目：精神科における身体ケア 14 回目：身体疾患を持つ者のメンタルヘルス リエゾン精神看護 15 回目：看護師のメンタルヘルス		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 2 精神看護の展開 (医学書院)		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 （配点：工藤：60 点 小林：40 点）		
備 考			

教 科 目	精神看護学方法論Ⅲ	時間(単位)	16 時間(1 単位)
		講義方式	講義形式
講 師	矢野 さゆり	山本 ひとみ	
所 属	専任教員	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	病院にて看護師として勤務	
教 科 目 目 標	1. こころの健康障害を持つ人の特徴を理解し、必要な看護援助の基本を学び、看護過程を展開できる。 2. 保険・医療・福祉の統合を視野に入れ、地域における暮らしの場を拡大することを目指した看護援助を理解できる。		
教 科 目 内 容	1. 看護過程の展開 2. 人間関係論 3. 精神保健福祉法の理解 4. 精神科におけるリスクマネジメント		
授業予定期間	2024 年 4 月～5 月		第 48 期生 3 年次
授業計画	< 1～4 回目： 山本 > 1 回目：精神科における入院治療 (精神保健福祉法、入院形態、行動制限、入院患者の処遇) 2 回目・3 回目：精神疾患・障害への援助（看護過程） 4 回目：ケアにおける人間関係 プロセスレコード < 5～8 回目：矢野 > 5 回目：精神科における安全管理と災害看護 6 回目・7 回目：精神疾患・障害を持つ人の社会復帰支援 8 回目：まとめ(精神看護学実習に向けて)		
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 2 精神看護の展開 (医学書院)		
受 験 資 格	6 回以上の出席		
評 価 方 法	終講試験 (配点：矢野 50 点 山本 50 点)		
備 考			

教 科 目	統合科目Ⅰ		時間数（単位数）	30 時間（1 単位）
			講義方法	講義・学内実習形式
講 師	かもさき はるみ 鴨崎 治美	なかはし あつこ 中橋 厚子	やまもと きみこ 山本 規美子	
所 属	非常勤講義	非常勤講師	専任教員	
担当者実務経験	病院にて看護管理者として勤務	救急看護認定看護として病院勤務	病院にて看護師として勤務	
教科目目標	組織の中で看護を実践するために必要な管理について理解し、チームの一員として働くために必要な知識を習得する。 災害看護への認識を深め災害は発生時の看護現場における支援活動、被災者への救援活動に必要な知識を習得する。 国際社会と看護活動についての知識を習得する。			
教科目内容	1. 看護管理 2. 災害看護 3. 国際看護			
授業予定時期	2024 年 4 月～5 月		第 48 期生 3 年次	
授業計画	【看護管理】（鴨崎） 1 回目・2 回目：看護管理とは 			

教科目	統合科目Ⅱ	時間数（単位数）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義形式
講師	いのうえ とみこ 井上 都美子	かなや なりとし 金谷 成寿	たかはし せいいちろう 高橋 誠一郎
所属	非常勤講師	非常勤講師	非常勤講師
担当者実務経験	病院にて医療安全管理者として勤務	病院にて感染管理認定看護師として勤務	病院にて臨床工学技士として勤務
教科目目標	1. 医療安全管理の考え方と実際について理解できる 2. 病院内における感染管理が理解できる。 3. 医療機器の安全管理が理解できる。		
教科目内容	医療安全・感染管理・医療機器と安全管理		
授業予定時期	2024 年 4 月～5 月 第 48 期生 3 年次		
授業計画	【医療安全】（井上） 1 回目：医療安全管理の概要 1) リスクマネジメント ①医療安全管理推進のきっかけとなった事故事例②医療安全に関する定義と分類 ③医療現場とリスク④安全管理体制 ⑤事故の現状と課題 2) 医療事故の背景 3) 医療事故と法的責任 2 回目：医療安全管理の実際 1) リスクの把握と分析 2) 健和会における医療安全管理の実際 3 回目：ヒューマンエラーと医療事故 4 回目：医療事故発生時の対応 5 回目：危険予知トレーニング 6 回目～8 回目：看護における安全対策 1) 看護業務と事故発生要因 2) 医療事故の種類と安全対策 ①誤薬（注射・内服）②針刺し ③チューブトラブル ④転倒、転落 ⑤誤嚥 ⑥皮膚障害 ⑦患者取り違い ⑧コミュニケーションエラー 9 回目：まとめ 【感染管理】（金谷） 10 回目～12 回目： 1) 院内感染 2) 標準予防策 3) 感染経路別予防策 4) 滅菌と消毒 5) サーベイランス 【医療機器と安全管理】（高橋） 13 回目～15 回目： 1) 医療機器とは 2) 医療機器の安全な使用 3) 電氣的安全 4) 血圧計・心電図モニター・パルスオキシメーター・人工呼吸器 5) 高気圧酸素治療器・除細動器・ペースメーカー 輸液ポンプ／シリンジポンプ・電気メス		
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 2 医療安全 （医学書院）		
受験資格	10 回以上の出席		
評価方法	試験：医療安全 60 点・感染管理 20 点・医療機器 20 点		
備考			

教 科 目	統合科目Ⅲ	時間数（単位数）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・論文作成形式
講 師	やまもと きみこ 山本 規美子	所属	専任教員
		担当者実務経験	病院にて認定看護管理者として勤務
教科目目標	看護学の学びを統合し、自己の「看護観」を明確にする。 互いの看護観を交流し、看護職者として従事する各人の看護観を、発展させる礎とする。		
教科目内容	1. ガイダンス 2. 看護観の作成 3. 講評のグループワーク 4. 看護観発表会		
授業予定時期	2024 年 5 月・2024 年 11 月～12 月・2025 年 2 月 第 48 期生 3 年次		
授業計画	1 回目：ガイダンス（1）「看護観」について（5 月） 2 回目：ガイダンス（2）「看護観」作成について（12 月） 3～10 回目：「看護観」の作成（12 月） ■ 日課表に提示されている時間割にそって学院内で作成する。 ■ 指定のフォーマットで、3200 字から 4000 字にまとめる。 ■ 各自 P C 持込 11 回～15 回目：指導を受け修正（12 月） * 講評グループワーク（2 月） * 看護観発表会（2 月）		
受験資格	出席 10 回以上		
評価方法	提出物および参加状況によって評価する		
備 考	■ 看護観は、1 年次からの学びの過程の中で育成される。特に実習はその中心となるため、毎回の実習を大切にする。実習毎の学びである「3 分間スピーチ」を保管しておく。各人の実習記録を貸し出す。		

教 科 目	統合演習	時間（単位）	30 時間（1 単位）
		講義方法	講義・グループワーク 学内実習形式
講 師	うえだ やすこ 上田 泰子	やまだ ゆみこ 山田 由美子	
所 属	専任教員	専任教員	
担当者実務経験	病院で看護師として勤務	病院で看護師として勤務	
教 科 目 目 標	臨床の実践現場を想定し、看護技術、判断能力・問題解決の能力、フィジカルアセスメント能力を修得する。		
教 科 目 内 容	1. 事例のアセスメント 2. 実践計画立案 3. 実技実践 4. リフレクション		
授業予定期間	2024 年 11 月	第 48 期生 3 年次	
授業計画	【事前オリエンテーション】 実施要領にそってオリエンテーションを行い、事例を提示する。 1 回目～4 回目 1. 患者全体像作成・患者全体像の追加と修正（グループ） 2. ケア計画作成・ケア計画の追加と修正（グループ） 3. 実践練習 5 回目～8 回目 1. 実践練習 9 回目～14 回目 1. 客観的臨床能力試験 2. 実践記録 3. リフレクション 15 回目 評価 ☐事例ごとの課題に対するケア計画を立案し実施する。ケア計画立案はグループで行う。 ☐3 年次の臨地実習グループで行う ☐1 週 30 時間を継続して行う		
教 科 書	なし		
受 験 資 格	10 回以上の出席		
評 価 方 法	出席・学習内容・参加態度・ケア計画・技術実践・記録		
備 考			